



(土岐真扉の物語)



『 Masato TOKI の物語 』



『 トキ・マサト伝 』

キューダップ
ワールドノベルプロジェクト
(投稿用)
(2020年01月11日～)

霧 樹 里 守
(きりぎ・りす)

目次

【 移転 の お知らせ 】	1
(応募要項) + (参照資料ファイル)	2
(第3稿)	
(第3稿)	5
(序) 母の物語	6
(起) 幼年時代 (1) 名前の謎	28
(起) 幼年時代 (2) 育ての親	36
(起) 幼年時代 (3) 生育環境	42
(承) 学生時代 (1) 同人活動	48
(承) 学生時代 (2) 同居家族	54
(承) 学生時代 (3) 学祭参加	62
(転) 青春時代 (1) 学生起業	69
(転) 青春時代 (2) 宇宙進出	77
(転) 青春時代 (3) 世界創造	86
(破) 友の物語	95
(結) 黄金時代 (1) 私財喜捨	99
(結) 黄金時代 (2) 箱舟建造	109
(結) 黄金時代 (3) 生命救済	113
(急) 父の物語	119
(第2稿)	
(第2稿)	131
(タイトル&構成 第2案) (2020年01月18日)	132
(起) 母の物語	134
(承) 幼年時代 (1) 名前の謎	156
(承) 幼年時代 (2) 育ての親	164
(承) 幼年時代 (3) 生育環境	170
(転) 学生時代 (1) 同人活動	176
(転) 学生時代 (2) 同居家族	182
(転) 学生時代 (3) 学祭参加	190
(結) 黄金時代 (1) 特許取得	197
(結) 黄金時代 (2) 一攫千金	198

(結) 黄金時代 (3) 乾坤一擲	199
(末) 父の物語	200
(ぶっつけ草稿 & やっつけ構成)	
(ぶっつけ草稿&やっつけ構成)	203
(構成)(案) (2020年01月11日 22:22~)	204
(序...章) (出生の謎)	206
(序...章) (仮親ボラ)	212
(序...章) (生育環境)	218
(破...竹) (同人活動)	223
(転) 学生時代 (3) 学祭参加	228
(破...竹) (学生起業)	230
(転) 学生時代 (3) 卒業起業	233
(キャラ設定)(新・旧)	
(キャラ設定)(新・旧)	239
由利 志郎。(2017年8月10日)(コピペ)	240
(ぶっつけ設定めも)(作業用)	
(ぶっつけ設定メモ) (作業用)	245
(2020年01月14日) めも。	246
(借景資料集)	
(借景資料集)	251
(借景BGM集) (追記 @ 2020年03月27日)	252
(執筆関連日記)	
(執筆関連日記)	257
(2020年01月11日) 作戦、決定!!	258
(2020年01月12日) 電卓を用意しましたw	262
(2020年01月12日) いま + 2, 052 文字。書いた。	264
(2020年01月18日) (まだ5分の2ッ!)	268
(2020年01月19日) エンストなう...(ー;)...★	272
(2020年1月25日) がんばれあたし! 「あと半分...ッ!」(・・)	275
(2020年1月26日) ゼッタイ大事なブランドイメージの『社名』が...ッ!	277
(2020年1月30日) いま、「37, 315文字」...。(^^;)	281
(2020年1月31日 19:29) 終わった! (ー)ノ ☆	285
(2020年1月31日) 【総文字数 / 44, 554】	288
(2020年2月1日) 「正味10日で単行本一冊分を書く!」という無駄チャ レンジはクリアしました...w	291
(2020年2月2日) 「外見そっくりさん!」	294
(2020年02月02日) ☆新作アップ済で一す☆	296

(2020年03月01日) 日本語圏(出版社と読者層)は存続しうるのか? . . . 297

奥付

奥付 303

【 移転 の お知らせ 】

- ☆
- ☆ 超？ 大幅に、加筆&改稿を加えた
- ☆ 2022年版、こちらにございます。
- ☆
- ☆ 『 トキ・マサト伝 』
- ☆
- ☆ <https://novelpia.jp/novel/3441>
- ☆
- ☆

=====

(投稿用) (土岐真扉の物語) (仮題)

改め、⇒ 『 Masato TOKI の物語 』

改め、⇒ 『 トキ・マサト伝 』

=====

(応募要項) + (参照資料ファイル)

『投稿用 最終バージョン』はこちら。

⇒ <https://novema.jp/book/n1588851>

(元資料ファイル)

<https://puboo.jp/book/105153/read>

(キューダップワールドノベルプロジェクト)

<https://qdopp.co.jp/campaign-worldnovelproject-announcement>

(第 3 稿)

(第3稿)

(第3稿)

(序) 母の物語

一旦帰国して。シングルマザーとして産む道を選んだ。

なぜなら彼女の祖国は、単親（ひとりおや）に優しく。

養育費用は支給されるし、保育施設も無料で使えるし。

育児中でも短時間の仕事がみつけやすいし。

そして、『欠損家庭』への差別や蔑視や攻撃などもなく。

何より治安と経済が安定していたからだ。

そうでもなければ。

誰が好き好んで。

(あくまでも、今のところはまだ内縁の、ではあるが...)

夫であり、最愛の恋人であり半身ですらあるひとを、置いて。

一年だけ。のつもりとはいえ。ひとりで帰国したいなどと...

考えるだろうか？

しかし他国である日本にいたまま。

単親を装って産むには色々な差別と経済的なハードルが高過ぎて。

そして、父親の所在をしつこく追及されたとして。

その彼が。

滞在ビザ無し。

結果として不法就労中の存在であることを。

知られるわけには...

いかなかったのだ。

彼女自身の心のなかでの名前は、すでにとっくの昔に人妻であり。

『ヴェルドゥエラ・ラーディイー・デ・マーチャンドック・グリュエル=島田』というの
が

『正式な』フルネーム。

のつもり。ではあったが。

あえて『独身時代の旧姓』である『ヴェルドゥィユ・ラーディイー』だけのパスポート
のまま。

日本での研究職には『産休』を申請して。

マタハラすれすれの厭味を言われながらも、なんとか受理されて。

妊娠五ヶ月のおなかを抱えて。

なんとか、帰国した。

そして母国で無料の産院のお世話になって。

無事に生まれて。

おかげで息子は欧州国籍のみを得て。

徴兵制のある日本の戸籍には、編纂されずに済んだ。

昼間は無料の保育施設に子どもを預けて普通職のパートタイムで働き。

むろん短時間労働といえども正規社員と同等の時給を稼いで。

いくらかの貯蓄もできて。

これでまた物価は安い治安も悪い、落陽国家である日本に。

あえて戻って、愛する夫と共に、暮らせると…。

新千歳空港で。

迎えに来てくれた最愛の夫にしがみついて。

お互いに泣いて泣いて…

笑って。

涙と鼻水まみれのままで、熱い篤い…濃厚な…

キスを交わして…

そしてまた。

共に暮らし始めた。

＊

夫『グルージー・マーチャントリック・グリュエール＝ロウデアー＝島田』は、離れ離れのあいだ。

気が狂うほどに心配で心配で…

淋しかったが。

妻（内縁の）が科して出発した課題、

「名前は日本語で考えてちょうだい！ うんとムズかしいカン字で！

そうしたら私、日本語の書道にチャレンジするわ！ その字がすらすら書けるようになるように！」

という難題に。

うんうんう～ん...??

...と、頭を悩ませているうちに。

「無事、誕生！」の報せが届いて。

まずは一安心！ と、...胸をなでおろした。

送られて来た画像はとてもキュートな...??

(...えッ??)

真っ赤っか～で...!

黄色い粉をふいた。...!?

まるで、ポテトの煮崩れたような...

ものすごい...

モンスターのような...

御面相で...

哭き喚いていて...!!!?

思わず心配になって!

周囲の子どものいる家庭に見せては相談してまわったが...

親たちはけらけらと笑って。

「一ヶ月もすれば、ちゃんと人間に見えるようになるから大丈夫!」と、

保証して、くれた。

矢継ぎ早に、妻と妻の親戚や共通の友人たちから送られてくる画像は。

妻が満足そうな笑顔で順調に授乳できており。

モンスターは日ごとに地球人らしい美男子に成長しつつあると。

絶え間なく知らせてくれていたので。

やっと安心して。

考えに考えて、周り中をまきこんで、大騒ぎして決めた...

名前を。

伝えた。

『瀧人（ターキシユテ）・マーチャントリック＝ラージィイー・グリユエル＝島田』

「日本語式だと『島田瀧人』（しまだ・たきひと）だよ？

わかる？ 読める？... 書けるように、なれるかな...??」

添付メールで拡大して送った。

その『瀧』という画像の。

漢字の画数のあまりの多さに！

遠い異国の地で妻は大笑いして。

それから大きさに泣きまねをして、叫んだ。

『なにこれイジメですか〜〜〜ッ？』

『自分で難しい漢字にしろって言ったんじゃないか！』

そんな痴話喧嘩をしているうちに。

息子はすくすくと元気に育ってくれて。

地元の...

空港で。

ようやく！

家族が！

初対面と！

再会と...！

また、揃った...！！！！！！！！

*

それからの暮らしは順調とは... 言い難かったが。

妻は職場復帰後の厭味の嵐と閑職左遷に耐えねばならなかったし。

日本の公的保育園は働く外人女の高給取りシングルマザーの子どもの受け入れを拒否したし。

様子を診に来た地域の保健師には、危うく実の父親が。

不法就労の脱法難民だと、ばれそうになったり...！

したし。

子どもは順調にぐずるし暴れるし怪我するし病気もするし夜泣きもするし...

色々大変では、あったが。

それでも爆睡する赤ん坊と添い寝のまま寝落ちする少しやつれた妻の姿を。

すぐ間近に眺めれば。

離れ離れで暮らす日々に比べれば。どれだけ幸せか...と。

安い缶酒を毎週末に一本だけ、と。

自分にささやかすぎる贅沢を許して。

グルージーは幸せをかみしめた。

もはや自分の元の国籍や血縁者がどこの誰なのかも分からなくなってしまった、

複数種族難民間記録欠落混血孤児、と呼ばれる。

生まれながらにして無国籍者の身にしてみれば...

家族。というのは。

ただ、この小さな宝箱のなかの...

広い天蓋のしたに。

三人だけ。

だったので...

*

平穏な日々は。

しかし長くは続かなかった。

天地鳴動して大震災が起こった。

家屋は潰れたが、家族は無事だった。

職場は崩壊したが、命と身体は無傷で済んだ。

...よし！

きっと！また！

幸せに...！ なってみせるぞ...！！

夫婦は寄り添って赤ん坊を温めて。

臨時の避難所の寒い片隅で、

眠った。

*

避難所レベルでは。

躊躇なく、受け入れられた。

夫婦ともに日本語はぺらぺらだったので意思の疎通には不自由がなかったし、

なにより赤ん坊！ を連れているという一点で。

少子高齢化が深刻すぎる状況の、過疎の寒村においては。

歓迎来臨！ というジジババの勢いだったからだ。

避難所に滞在している総人数と、性別や年齢や健康状態やを調べに来た、

役場の人間だけが、いささか困惑した。

名簿に記入しろ、とペンと紙を突き出した瞬間に、夫が真っ青になって冷や汗を書き、
突然、

「わ... ワターシ、ニッポンゴ、わっかりませーんっ ...ねっ？」

と。

明らかに日本で生まれ育ったと知れる流ちょうな日本人なまりのニセ外人ぶりで。

叫んで回れ右して、脱兎のごとく逃げ出した...からだ。

「...ワタシハ、欧州人デース。大使館ニ！ 連絡シテクダサーイ！」

その妻と思しい人物も、かわいらしい赤ん坊を、きつく抱きしめたまま。

...いざとなったら...

夫を護って闘う！

敵意を満々とたたえたキツイ眼をして睨んでくる。

「...いや、え〜と。あの...」

役場といっても戸籍担当ではなく、保健所の人間であったので。

そしてこの北の涯の海際の土地では、実際に「よくある話」ではあったので...

海の向こうの大陸を割拠していた、昔日の幾つかの大国では。

相次ぐ人災や天災や戦災やによる、

各国からの大量に流入して来る国際避難民たちと。

深刻な旱魃や森林火災や水害や冷害による不作で。

都市へ『出稼ぎ』に流れ出た、

大量に過ぎる無届けの国内移民たちと。

独裁的な政治に『反抗した』思想犯たちと。

治安が悪化の一途をたどる中で次々と逮捕され裁判の暇すらない、大量の刑法犯罪者たちと。

さらには『劣等人種』と勝手に烙印を捺され『民族浄化』の対象と定められてしまった、

少数民族や、先住民族たちを。

それぞれ、ろくに区分することもなく。

ごった煮のぎゅう詰めにした『収容所』という名の『強制労働所』で...

『過酷な環境下で、死ぬまで働かせる』という。

緩慢して残虐な。『労働死刑場』にて。

まさに。『飼い殺し』にしていた。

そんな場所で。

親の国籍も判らず片隅に生み捨てられる『混血児』たちや。

親に死に分かれて自らの名まえも分からぬ、幼い孤児たち。

名簿に載らないその人数を、攫い出して来ては。

何やかやの目的で『売りさばく』組織や。

あるいは自力で逃げ出して、ボロ船を盗んで。

命からがら、こちら側の島国の海岸に流れついて。

言葉もわからぬままに...

ひたすらに。

怯えて。

ただ、拾われたら、その場所で。

衣食住と、安心?...さえ。

与えられれば。

給料など、

権利や休日など。

要求しもせずに。

無給の無休で。

よく働く。

...そういう、

『激減した若年労働力を補うための』

ナイショの。

働き手。が...

あちこちの。

へき地の牧場や、寒村の、漁港に。

なかば公然と、点在しているのは...

役場も。

黙認してきた...

からだ。

そしてそういう者たち同士のあいだで。

さらに子どもが生まれて。

それがまた大人になり親になる。

そういう、時代になっていた。

日本で生まれて日本のことしか知らない。

日本で働いて、日本で買い物ををしている。

けれど。

日本の戸籍がなく。

世界のどこにも、国籍がない...

そういう、子ども。たちが...

今ではそういう人たちを。

捕まえたり罰したり、『本国』に強制送還したりという。

悪しき習慣は。無くなりつつあってはいたのだが。

それを説明する前に逃げ出した夫と、もはやすでに戦闘態勢の、妻を見て。

小役人は、やれやれとため息をついて、一覧表には自分でこう書き込んだ。

「ことばの通じない外国人旅行者一家」（夫妻＋乳幼児一名）と。

それが、この家族が残した、ささやかな。

唯一にして最後の。公的な記録となった。

*

役人が。

へたくそなウィンクをして。

笑顔で手を振って。

（名簿に書きこんだ内容をちらっとだけ見せて）立ち去って行ったので。

夫妻は安堵して、避難所でのサバイバル生活を続けた。

「...とあー..... ッキ！ っとお！」

「え～違うぞ？ おまえの名まえは、タキヒト。っていうんだぞ？」

「とあーきっと！」

「タキ、だってば。」

「とあーき！」

「トァじゃなくて...タ！」

むきになって修正させようとする夫を、妻は笑って止めた。

「どうもまだうまく『た』って言えないみたいなのよねー？」

「トアキじゃないよ〜う！」

「そのうち言えるようになるわよ〜う！」

「トァー...キ...タ！...ック！」

「それ全然違うから！」

『瀧人（ターキシユテ）・マーチャントリック＝ラージィイー・グリュイーエル＝島田』だから！」

「まだ無理よ〜う...（笑）」

そんな、日々だった。

*

記録的な大暴風&豪雨が襲った。

避難所は、山々に囲まれた、山裾の。扇状台地の奥端に建っていた。

とっくの昔に廃校になった、歴史的木造建築の、小学校の、旧校舎だ。

続く震災で倒壊が危ぶまれたので、避難民は校庭にテント村を張ってそこで寝起きしていた。

幸い、雨漏りはさほど酷くはなかったが。

狂風で飛ばされたテントや、怪我人がいくらかは出た。

雨が止んで。

各所の土砂崩れで道路が寸断され。車では救援物資が運べないと、無線で連絡が来た。

壮健を誇る農業や漁業や土木建築業で働いてきた男たちや女たちが。それではと。

それぞれに、使いこんだ背負子やリュックを担いで、山越えの道を歩いて荷を受け取りに行った。

夫グルージーも勇んで出かけて行った。

「待ってろよ、トアーキ！ 美味しいモンもらって帰って来るからなー！」

「んまー！」

それが、最後になった。

*

避難所は、山々に囲まれた、山裾の。

扇状台地の、奥端の。

頑丈な岩盤が削られた、川床の。

すぐ傍らに...

建っていた。

記録的な大豪雨が止んで、翌々日のことだった。

ふと誰かが気づくと、谷筋を流れる小川の流量が。

極端に、減っていた。

「...えッ...上流で、土砂崩れが... あったってじゃないべか...？」

続いて。

濁った泥流が...

ひたひたと...

谷底を...溢れんばかりに！

「山ッ！ 崩れんでねえべかッ?!」

騒ぎが起こるより速く。

どーーーーーん！

...と。

いわくいいがたい、巨大な轟音が。響いた。

「...崩れるッ！」

そんな映像は。

ニュースで何度も視ていた。

*

母は洗濯物を放り出して走った。

走った。奔った！

「...ヤマツナーミ、てんでんこー！」

走りながら、まだ気がついていない人たちに。

それだけ叫んで、伝えたつもりになるのだけが、精一杯。だった。

校庭のはしの自分たちの天戸に駆けこんだ。

ベビーサークルの真ん中で、赤ん坊は元気にひっくり返ってた。

おむつは替えたばかりだ！

とっさにひつつかんだゴミ入れ用の大きなビニール袋に。

子どもを放り込んで。

頭だけ出して、ぐるっと首のところで縛って。

それをしながらとにかく駆けだして。

扇状地からは、横に逃げないと！

脇の山に登らないと...！

しかし。

恐ろしい勢いで。

山がひとつ丸ごと崩れたか。

それともひとつと言わずふたつみっつの山がまとめて崩れ落ちたのか。

そうとしか思えない、大量の土石流が。

すぐ。背後から。

ものすごい高さで...

迫ってきていた！

*

母は走った。

走った。

奔った。

子どもを抱えて...

心臓が、破れるほどに！

(...あそこだ...！ あそこなら...！)

扇状台地の、真ん中に。

一カ所だけ。高く突き出した、岩山と。

元の一本松の、今は枯れて折れた... 枝のついたままの、...高い、切り株がある。

(あそこだ...！)

母は走った。奔った。奔った。

何度も転んで。泥まみれになって。

追いかけてくる泥流に腰まで埋まって。

必死で子どもを高く抱えて。

走れなくなって...

もがいて...

泥の中を、

泳いで...！！

岩山の裾に！

ようやく！

辿り着いた！

泥が胸まで届いた！

すぐに首まで埋まった！

高く！

高く子どもを差し上げた！

届いて！

届いて...！

届いてええ...ッ！！！！

「お願い...！ お願い...ッ！！」

子どもに着せたビニール袋を。

なんとか。

松の枯れ木の...

その...

枝に...ッ！！！！

「お願いーーーーーいいいい...ッ！」

涙ながらに。

口元まで、泥に埋まりながら...

叫んだ。

「おねがいーーーーーッ！」

その、時。

「... わかった...。」

誰かの声を。

母は。

たしかに、聴いた。

一陣の。

にわかな...突風が。

吹いて。

とっくに折れて枯れて、

固く干乾びていたはずの...

松の、枯れ木の枝が。

ぐいんと。しなった。

赤ん坊の首に結んだビニール袋の

結び目を。

枝が。

ぐいんと。

引っかけて...

上へ。引いた。

泥は、もう、母の。

目を覆うばかりの高さに来ていた...

母は。

そのまま。

流された...

埋もれた...

「元気でね！ トアーキ！

元気でねええええええ.....ッ！！！！」

それが。

赤ん坊が。

覚えていた。

青い...空の。

母の。

最期の...

*

妻を喪った夫である父が。

失われた息子と。

遠く離れた場所で。

再会を、果たすのは...

それから、長い長い...

歳月が。

過ぎた後の。

話になる...

*

号泣の彷徨と。

困窮の流浪の果てに...

一枚だけ。

家族三人の改まった笑顔の...

画像がのこる。

でかい眼で、にぱりと笑っている。

片方の前歯がようやく生えかけたばかりの。

ぼやぼやした褐色の淡い柔らかいクセ髪の毛の。

肌の色も（日本人のなかにいると）やや薄めの赤ん坊と。

大事そうに胸に抱く母は。

渦巻く豊かな黒髪を腰まで長く伸ばして。

少し古風な、民族風の衣装を身につけて。

印欧アフリカ&アジアの複雑に入り組んだ混血のもたらした、

奇跡的なほどに美しく整った、卵型のなめらかな骨格の。

明るい笑顔の。

浅黒い肌に、緑褐色にきらめく理知的な大きな瞳。

その肩に腕をまわして、大事そうに抱く、夫は。

中央アジア独特の、薄い色素の髪と眼に。

蒙古系との混血を示すなめらかな顔立ち。

ユダヤかアラブの血もひくらしい、特徴的な鼻の線。

幸せそうに...

妻の髪に、頬を寄せて。

笑っていた...

懐かしい。

昔の、話だ。

(起) 幼年時代 (1) 名前の謎

一面の荒れた大地に。

ひとりぽつんと。

取り残されて。

その子どもは、

泣きもせずに。

大きな眼をして。

救助者を、きょとんと見上げていたという。

そこは北国の。

荒涼たる。

かつては…

農村地帯で。

幾度も繰り返す襲い掛かる。

大震災と、

津波と。

原形も留めぬまでにひしゃげた、

建造物群の残骸と。

それでも芽吹きかけたまま。

哀れ放射能に侵されてひねこびて病み、

枯れつつあるわずかばかりの農作物の。

そのさなか、つい先日、再び襲い掛かった。

激しい積乱雲による大暴風雨と、山津波と…

土石流で。

地表に取り残されていた最後の人々の、難民キャンプが。

全て。

流されて、

消えた。

泣きながら、生存者を探しにきた者たちが。

唯一、見つけて、連れて帰ってきたのが…

その子どもで、あった。

大急ぎで。

周辺数百メートルの範囲の、浅い地表が搜索されたが。

その子どもの保護者であったろう大人は。

おそらく。

…

子どもだけは、せめて。

きっと…

助かってくれ！ と信じて…

少しばかり尖って突き出た大岩の上に。

子どもだけ。

を、最後のちからで、

かろうじて。

押し上げて…

山津波に。

自身は呑みこまれて、泥中に。

沈んで、果てたのであろうと…

救助者たちは、涙ながらに語った。

激しく襲い掛かる泥流のさなかに巻き込まれて沈んだであろう、人々の数はあまりにも多く。

名簿を改めるためだけにすべて掘り出して、あらためて埋葬しなおすほどの、

余力は。

救助者たちにも、もはやなかった。

後日、その子どもを救い上げてくれていた…大岩のふもと。

枯れた松の木の根方に。

一粒の、どんぐりだけが、供え物として植えられた。

せめてもの、たむけの、追悼の。

母の。

墓碑の代わりに...

*

見知らぬ大人たちに連れられて収容されなおした、

移転先の難民キャンプは、

南の国の。

ことばのなまりが。

それまでいた北の地方とは、

かなり違う、地域であった。

「じぶん名前なんち言うん？」

見知らぬ大人に、聞き慣れぬ言葉で訊かれて。

子どもは、きょとんとしていた。

「名前や...な・ま・え！」

しばらく考えて...

答えた。

「...とあーき、...まー... ちゃん...と。...とあき！ まーちゃん...とっ！」

「...トキ、かいなあ？」

...トキ・マーチャン？ 言うんやな？ マーチャン...ト？ マチャト？ ...マチャヒト君、
かいな...？」

と、

発音したようだ。

探している親族が。

まだ誰か、生存しているかもしれないと。

録画とともに公開された記録には、

...残る。

『トキ』という名字の大人は。

喪われた難民キャンプの。

逸失をまぬがれて遺された、部分的な収容者名簿には、...なかった。

しかしそれは名簿のほうの不備かもしれなかった。

被災に次ぐ被災で。

どこの収容施設も。

満身に、きちんと、収容者の人数や名前を把握できているとは...

とても、言いきれなかった。

大人たちは、しばらく考えて。

子どもの名簿には、

(仮名)『土岐(または多岐か滝?)正人(マサトまたは マサヒト)』という字を充てた。

*

あるいはそれは『轟 正仁』(とどろき・まさひと)と。

はぐれた父親の名前のことを。

呼んだのではなかったか? と、

問い合わせが入った。

それはその父親の雇用主だったという人物からだった。

数ヶ月が経っていた。

子どもは、とりあえずその人物の保護下に入るようになったが。

幼い子どものこととて。

その頃には、元の自分の名前も、…親の記憶も。

すべて、失われていたようであった。

*

少し大きくなった頃に。

その経緯と、命名のいきさつが、子どもに説明された。

聡明な子どもは、ううん…？

と。考えた。

じぶんの名まえは、トドロキよりも、トキがいいかな…？

音が怖くないしね。

赤い鳥の名まえと、おんなじ音。だしね？

…と。

選んだので。

子どもの、自由意志が尊重された。

*

それからさらに。

しばらくして。

子どもが、ひととおりの日本語と、日本式の漢字の読みを。

覚えたところに。

本人から希望があつて。

『正人(マサト または マサヒト)』の標記は、『真扉』(まさと)に改められた。

その理由は。

同じ難民キャンプの、同じ学年に。

同じ漢字の『正人』が。

他に、三人も、いたので…。

ありふれ過ぎていてツマラナイし、

混同されやすいから。

「もっと！カッコイイのがいいと思って！」

自分で一生懸命に、考えたから。

…と、いうことだった。

こうして。

『土岐 真扉』(トキ・マサト)。(※ 本人希望名称。)

という姓名が。

改めて。

名簿に、刻まれた。

それが、後に。

人類史上に燦然と輝く。

偉業をなすとげた、人物の。

名前の、由来である。

(起) 幼年時代 (2) 育ての親

その呼び出し音が鳴った時。

幸い彼は、ティータイム中だった。

(そうでなければ、無視したところだ！)

「...係 (ハイ) ?」

その頃の居住地の言語で、とりあえず応えてみたところ、

「お久しぶりね、鋭 (えい) !」

日本語で。

...懐かしい...顔が。

すこしだけ、疲れた様子で。

ちょっとだけ、老けこんでもいたけれども。

相変わらずの、笑顔で...

画面に、大写しに現われた。

「やぁ...ひさしぶりだね、リツコ。今の通称は 清鋭峰 (ジン・ルイフェン) だよ。どうしたの？」

「そうだったわ。『人類・変』博士よね。変な名前w

香港勢のところに棲み着いてるのよね。元気そうね？

今日はね、『仮親ボランティア』コーディネーターとしてお願いなのよ！」

「...僕に？」

「...忙しい？」

「いや... 忙しいことは忙しいけど...超。...超ッ絶...！」

「無理かなあ？」

じつのところ。

建設まっさい中の、巨大人工宇宙島『3 P S』（スリーピース）の。

今なお、設計図の各所の細部をせっせと詰めつつ。

大枠の施工管理実務の大半を統括しているのが、

...彼だ。

それはもちろん相手も承知した上での...

あえての、お願いだ...？

「...う～ん...『F I F S』から日系対応コーディネーターにって。

元パペルの長野さんを貸してもらってからは、人事は押しつっちゃったんで、だいぶラクにはなったけど...

なぜ僕に？」

「それがね！ 五歳児クンなんだけど～」

「ええ？」

「質問魔、なんですって！」

それも院卒や博士号持ちの人でも答えに窮するくらい、ハードに専門的でコアに理系な！」

「...ははあ...」

「鋭も子どもの頃そんなだったって言ってたでしょ？ いわゆる理数系『天才児』枠よね？」

「そんな気はするねえ」

「でも食べ物はぼろぼろこぼすとか。服のボタンがまだ自分で留められないとか。目を離すとすぐに迷子になっちゃうとか。好奇心で何か『実験』しようとして、あわや大惨事！ 寸前とか～？」

...やらかすことは、やっぱりまだ五歳児。なんですって。

...鋭。

ちびっこの世話も教育係も...得意よね...？」

かつて世話されたちびっこ当人からの御評価なんだから、そいつは間違いない。

「...なるほど？」

がぜん好奇心は涌いた。

「とりあえず、連れて来させてみてよ。会ってから、お互いの相性みて決めるってことで...」

「ありがとう！ 『仮ボラ』の誰かが連れて行けると思うから、空いてる時間を教えて！」

いくつになっても元気な少女のままのような、旧知の知り合いは。

地球の全生命が絶滅寸前！ という大激変のさなかとも思えぬ、昔のままの...

笑顔で。

用件だけさくさく語ると、マイペースに。

さっさと映話を切った。

*

「...名前は？」

でっかい眼をして。

腰より低いくらいの位置から。

首をぐいっと曲げて。

必死に見上げてくる。

子どもの一生懸命さに苦笑しながら、彼は。

かがみこんで視線を合わせてから、尋ねた。

「...今の名前は... 土岐 真扉（とき・まさと）...」

「...そうなんだ？」

「前の名前は... たぶん違ってて...」

マーチャント・瀧（たき）。ナントカ。...だった。...たぶん...」

「...いつ頃の話？」

「たぶん二歳より前... 救助。される前...」

「覚えてるんだ？」

「なんとなく... じゃ、なくて。」

後から、思い出した。というか...」

「名前を元に戻すつもりはないの？」

「もう... 今ので。...慣れちゃったから...」

「そうかぁ」

「みんなトキって呼ぶし。」

「うんわかった。じゃ、それで行こうか。...トキだね？」

「うん。...あ、...はい。」

「ぼくはきみと同じで、一歳になる前くらいから、ほとんどの体験を、かなり鮮明に記憶してる体質。」

「...そうなんだって、聞いた...」

「誰に？」

「リツコさん...」

「リツコと会ったんだ？」

「直接は会ってないよ。映話で話しただけ」

「...ぼくと話す時は、『子どものふり』しなくてもいいって、習った？」

「それは習わなかった。あなたを視て、いまボクがそう判断しました」

「じゃ、ぼくら、うまくやっていけそうだね？」

「...よろしく、お願いします...」

「ぼくの『今の名前』は、ジン・ルイフェン。昔の仲間は、エイとか、リールとか、色々で呼ぶよ。

日系の政治的亡命人だけど、あちこち転々としてて。

今はおもに香港からの亡命勢と一緒に、宇宙と地上を行ったり来たりして仕事してる。

人工宇宙島『3 P S』の設計施工担当総責任者。

よろしく。』

こうしてトキ・マサトは。

巨大宇宙港の、建造現場のまっただなか。

天才科学者と天才技師たちと天才宇宙飛行士と。

宇宙トップクラスの建築技能士や、事故即応隊員たちや、救急医療師たちが。

行き交う中で。

おとなに囲まれて...

各分野の専門家たちが暇ひまに面白がって教える、超のつく...

専門知識を。

シャワーのように浴びて、育った。

(起) 幼年時代 (3) 生育環境

通称『3 P S』(スリーピース)と呼ばれる巨大人工宇宙島は。

その名が示すとおり、大きく三つの部分に分かれる。

第一に建設されたのが『最初のP』と呼ばれる、『PORT』(宇宙港)の部分。

第二に設置されたのが『支えるP』と呼ばれる、『POWER』(駆動部&工場)部分。

第三に増築されたのが『第三にして真のP』の、『PEAPLE』(居住区)の部分。

だった。

正式名称は(英語圏では)

『The PORT of The PEAPLE's POWER』。

設計施工は『星雲基金』(ネビュラ・ファンド)推進機関の、実質的な首脳陣各位が請け負い。

資金源である施主は...『F I F S』(フィフス)と名乗る『人類救済委員会』だ。

つまり、全人類の、希望の人工星...だ。

トキは、正式に『仮親』となってくれたジン・ルイフェンや、仕事仲間たちに連れられて。

最初は『3 P S』建設委員会の本拠地だった地上の南米基地で暮らし。

次には建築中の『PORT』の作業要員が寝泊まりする、

仮設の隣接施設『POP-UP』の。

有重力エリアで育った。

当然だが、他にはほとんど同年代の子どもなどいなかった。

ひたすら、大人たちの緊迫した日々の船外作業や。

追加で至急の設計変更における怒号と混乱のディスカッションや。

突発事故対応や遺体や宇宙葬の悲惨さ...の。

なまの現場を観て。肌で感じて。

学んで、育った。

大きな事故や、悲劇的な事件なども多かったが。

建築の手が停まることは、一刻だとしてなかった。

早く...

早く！

一日でも、一秒でも

早く...

地上の、人類と、全生命の... (せめて種子や遺伝子だけでも!) を...

保護したい！

働く人々は、それだけを願い、集まった、

... ボランティアたち。

だった。

仲違いもトラブルも多かったが。

一触即発のような状況になった時でも、

…ふと。

地上の…

荒れ果てた、姿を、眺めおろすと…

おとなたちは一気に冷静になり。

「ここで言い争ってる場合じゃないな…！」と。

意見のすりあわせポイントを必死で、探して。

譲歩しあい、

止揚させ…

話し合いで。

解決して。

建築を、進めた。

それを、トキは、まじかに…

観て、育った。

*

トキがそろそろ十歳になろうかという頃。

『3 P S』の『最後にして最大の P』が。

ようやく、完成した。

以後の運営主体である『F I F S』への引き渡し式典と。

盛大な、打ち上げパーティーと。

即座に。

めまぐるしく送り込まれ始めた...

大勢の、避難民の...

最初期の、『宇宙移民』の。

一般人の。

ひとびと。

トキはその人たちとコミュニケーションをとる方法が、最初よく分からなかった。

今まで周囲にいた、いずれ劣らぬ『天才肌』の大人たちとは...

なにもかもが、違っている、ようだったので。

「...残念だけど、そろそろお別れの、時期かな...？」

続く『月基地建設』計画へ向けて。

慌ただしく移転の仕度を始めたジンに。

ある日、言われた。

「きみはちょっと急いでオトナになり過ぎた。ここらでいっぺん、時間を巻き戻して。

遊ぶとか、さぼるとか、昼寝をするとか。トモダチをつくるとか...

そういうのを、学んでみる、番だよ？」

「...ジンもそうだったの？」

「...え？」

「ジンは？ オトナになる前に... コドモ、やったの？」

「... う～ん...」

五年間の育ての親は。

実年齢にはまったく見合わない若々しい外見の、

若々しい仕種で。

大仰に悩んでみせた。

「やったと言えば... やったかなあ...」

友達、は、出来たねえ...

失恋も、したりとか...」

「そうなんだ？」

「うん。まあ... 今のぼくの基盤になる経験というか... 青春というか？ は... した。ねえ...」

「ふ～ん...」

「大事な、思い出だよ。きみにも、そういうのを、体験しておいてほしいなあ？」

「そうなんだ...」

「とりあえず、新設される『3 P S』の『俊秀英才学院』内に『複数学年スキップ級』（天才児クラス）が出来るから。

きみさえよければ、すぐにも編入手続きを、するけど？」

とりあえず、数年でもいいから。

同年代の人や、一般的な知能指数の人たちとの。

交際のしかたや、『一般常識』を...、学んで。

それで、もし僻地での、天才仲間まみれの。

閉鎖的な環境の中での暮らしのほうが、向いていると思ったら。

就職は、月面開拓や辺境開発に、...したらいい。

そう、言われて。

しばらくの、お別れの、つもりで。

笑って。

月面基地建設のための仮設宿泊施設に向かう、ジン達、育ての親たちを、

見送って...

以後、直接に会う機会は。

ついに、なかった。

(承) 学生時代 (1) 同人活動

学生生活、は...

面白かった！

子どもの頃には。

難民キャンプでは...

周りには、いなかった。

自分と同じくらい、頭の回転が速くて...

理解力も好奇心も、同じくらいの、

...仲間！

『天才児クラス』の学級仲間は...

元々の学年や実年齢や。

出身地や言語や、宗教の有無や宗派や、生活習慣や... は、

すべてが、異なっていて！

それだけでも面白かったが。

その『発見する違い』の、

『着眼点の違い』や。

『それに対応する態度』の選び方や

『分析と論評』などなど... が！

『違い』や『個性』が『あること』自体が。

面白くて。

しばらくの間、トキは眼をきらきらさせて。

過剰に... 精神的に過労になるほどに...

『人間関係』というものに、ぐんぐん、のめりこんでいた。

まあ具体的には。

学級の『一般常識』授業なんかは、軽く放り出してしまっ。

みんなで図書館の一隅により集まって。

珍しい事象の、珍しい解析結果について、ディスカッションしたり。

一般人エリアの飲食店に繰り出して。

価格設定と原価と企業の収益率とを考察して酷評し冷笑しながら。

文化と人類の食欲と性的恋愛的共食行動の心理学的行動関係について、考察したり。

しながら...

とにかく、食べたり！

喋ったり！

笑ったり！

食べ歩いたり！

歌ったり！

踊ったり！

ナンパ！...してみたり...！

それまであまり触れる機会のなかった...

多ジャンルの音楽を。

勧められるままに次々と聴いたり。

生の演劇や演奏を！ 舞台上で観たり！

『芸能人』と。じかに喋って。質問したり！ されたり！

...そんな。刺激的な、日々だ。

*

「...そこまでハマるとは思わなかったなあ...

今まで結構やっぱり、寂しかったわけだねえ... ごめんね？」

映話の画面の向うで。

育ての親が苦笑して謝罪するのを。

トキは大慌てで、全力で否定した。

「本物の一流の大人のひとたちから、現場で色々習えたのは、本当に愉しかったよ！

でもそれとこれとは別腹！」

「別腹かw」

そんな風にして、数年があっという間に過ぎた。

*

もうひとつ、この時期に。

トキがハマったもの。といえば。

...そう。

皆さんとっくにご存知の...

二次創作・同人作家活動、だ。

「実学的にはありえない！ 全然まったく『科学的』じゃない！ 『SF』& I F設定」だの、

「誰がそんな無茶な技術を考え出したんだ！ むしろFTじゃないのか！」と。

突っ込みたくなる...

娯乐的、冒険的、

ちょっとエロかったりもする...

エンタメ作品群の。

キャラクター造形が...

面白い！

当初。

オリジナル作品を。

いくつか書こうと...試みてみて。

トキは自分には「ゼロからの完全なる創作」（巨匠トルキンが語る『準創造』）

特に、『人物像（キャラクター）を、無の闇の中から産み出す』という...才能は。

残念ながら、宿っていないことを、...悟った。

人生、初めての挫折。

...だったと、後年、彼自身が自伝で語っているが...

次いで彼は。

『大好きな他人作品のキャラクターを使って、』

『オリジナルな I F 展開を仮定し、独自案で演繹する』という...

いわゆる『二次創作』作業に萌えた。

この方面には、いささかの才気を見せて。

『騎士世 彼方』（きしよ・かなた）の筆名で発表された某 S F 風味の架空歴史大作の。

I F 設定な作品群は。

元ネタ小説の新旧ファンたちから、大きな支持を得る。

『天才・中学生？ 作家、現る！』という見出しが。

彼の存在が世に知られた、最初の雑誌記事となった。

*

そして再びトキは、『はるかに年上』の。

『世に一流と呼ばれる』おとなたち、と。

そして。

それまでとは違って...

幅広く、様々なジャンルの...

第一線で活躍する、『文化人』や『芸能人』や『芸術家』。

また、『資産家』『企業家』とも呼ばれる、文化活動支援者の、大人たちと...

交流を、持つようになった。

(承) 学生時代 (2) 同居家族

この時期の、忘れてはならない、新しい出来事として。

「家族！」と、トキが呼んだ。

二匹との、出会いがある。

宇宙都市『3 P S』では、一般人の受け入れ開始と同時並行して、大量の動物たちをも運び入れていた。

野生生物たちは、「可能な限り、生態系まるごと」を目標として『自然環場』に収められたが。

長い歴史のなかを人類と共に暮らしてきた、いわゆる『伴侶動物』『使役動物』たちのうち。

元の同居人家族とは、死別なのかか生別なのかで、はぐれて保護された、比較的小型の動物たちは。

一時保護施設で保菌検査や健康状態のチェックを経て。

移住生活もそろそろ落ち着きはじめた、新規移住者たちを相手に。

出会いの場たる『もふもふ合コン』（いわゆる譲渡会）が、あちこちで次々に開かれた。

むろんこの会は、人と伴侶動物たちを引き合わせるだけでなく。

同じ動物を愛好する人間同士の出会いとコミュニケーションを醸成するための場。

でも、あったのである…。

(有名なエピソードとしては。

一匹の愛らしい猫の飼い主たらんとして、その『猫様』の寵を競いあった二人が。

結局、熟年男女で同居して、猫様を『お子様』としてお迎えする…という結論に至った。

などなどの。ほほえましいものが数々遺されている。)

トキがこのころ間借りしていた『天才児学生寮』(通称《変人寮》)は、もちろん動物同居可だった。

トキは幼い頃にほとんど小動物と触れあった経験がなく。

始めは憧れ半分の、おっかなびっくりで『もふもふ合コン見学』に、出かけていたのだが…。

ある時。

一匹の…犬が。

成犬だった。老犬というほどではなかった。

落ち着いた風情の…

何かを諦めたかのような…達観した、眼をした…

静かなたたずまいの。

猟犬の血を引くのであろう。

賢そうな…

犬だった。

トキは一目惚れした。

ぜひとも家族になって！

というよりもむしろ『師！』として仰いで、教えを乞いたいような。

そんな、気分になった。

その頃には『もふもふ合コン』の『常連見学者』と呼ばれていたくらい。

足しげく通うだけで、なかなか相手の決まらなかった彼の。

初めての、一目惚れ！

...に。

仲介スタッフたちは大喜びで。

監視器用の軽い首輪と柔軟なロープだけ付けて。

すぐに、トキに彼を渡した。

トキは大喜びで、彼を寮に連れ帰ろうとした。

彼は...

抵抗した。

ガンとして地面に貼り着き、動こうとしない彼に。

トキは涙目になって...

目線を合わせて...

地面に這いつくばって...

尋ねた。

「え〜と... ぼくのこと... 嫌い...??」

犬の返答はその否定であった。

…と、その頃はかなり動物たちのボディランゲージを判読できるようになっていた、トキは後に書く。

『着いて来い』と、態度で。

あきらかに。

命令口調で。言われたと…

そして。

犬は堂々と。

迷わず歩いて行った。

そこは隣接する『猫のもふもふ合コン会場』だった。

「…あッ！？ だめよ！ 犬さんは！ こっちに入っちゃ…！！」

スタッフが慌てて制止した。

犬は、びたりと、停まった。

「え？ す、すみません… ええと… なに？ なに？」

おろおろするトキを。

ちらりと、見上げて。

犬は。

…吠えた。

「ワン！ ワン！ ワン！」

正確に、三度。短く。

「...うにゃう～ん...！うにゃにゃ！うなな！うにゃにゃにゃにゃ～...ッ！！！」

激しい、返答の音がした。

はるか...

彼から。

「え...ッ?! ムクちゃんが...? 喋った！」

「ど、どうしたの、ムクちゃんッ？」

「だめよ！怪我するわよ！そんなにひっかいたら、爪がッ！」

「ワン！ワン！ワン！」

「...うにゃう～ん...！うにゃう～ん！うにゃにゃにゃにゃう～ん...ッ！！！」

トキは慌てて反対側の出口に廻って。

犬と一緒に猫エリアの外側から首だけ突っ込んで。

「その猫を！」と、叫んだ。

ほどなくして、事情を了解したスタッフたちが、猫をキャリーに入れて、ダッシュで運んできてくれた。

「...ウォ～ン...！！！！！」

「んにゃにゃにゃ！んにゃにゃにゃにゃ！んにゃにゃにゃにゃ～ッ！」

種族を超えて。

彼らが最愛の『家族』同士の、再会を果たした。

のであることは...

誰の眼にも、明らかだった。

トキも一緒にもらい泣きした。

居合わせた、すべての人々が...

笑って...

泣いた。

後に聞いたところによると。

「無口のムクちゃん」

「ムクレのムクちゃん」と、スタッフから呼ばれていた...

彼女は。

美しい外見と、血統書付き！（遺伝子検査で判った）という有利さにも関わらず。

どんな人間が「あなたと同居したい！」とトライしても...

頑として。拒み続け...

受け入れなかった。そうだ。

『猫もふ会』と『犬もふ会』は原則それぞれ別の場所で別のサイクルで開かれるから。

その日、その時、その場所で。

二種同時の『もふ会』が開かれて。

とはいえ、おもに猫サイドの安心感情をおもんばかって、はるか彼方...

少なくとも、百メートルは離れていた。のだが。

あいかわらず、頑として人間を無視して一言も鳴かなかった、猫の。

『今日いまそこに、彼女がいる！』

ということを...

犬とはいえ、よく嗅ぎ分けた、ものだ...

と、トキは後年たびたび語った。

そして丁度、その時。

やはり「飼い主を選んで？」拒否し続けていた...彼を。

トキが... 外に連れ出して...

そして。

「これはもう、運命だよな?!」

...と。

家族三匹（人間である自分も入れて、トキは家族を『匹』で数えた）揃った！

...と。

トキの動物愛好者たる一面を語るエピソードとして。

ファンのすべてには、広く知られ尽した話では、ある。

*

犬は英国系の猟犬血統複数のMIXで、名前はさんざんトキが悩んだ挙句、

試しに『アレックス!』と「呼んでみたら、返事をしたから。」と、それで決まった。

猫はなんと呼んでも返事はしなかった。何かがお気に召さないらしかった。

しばらくは『お姫様!』と呼んで同居していたが...

一時期の、トキにとって最初の人間の、性的接触行動を伴う異性の友人...いわゆる『初彼女』...が。

「アレックスの相方なら、アレクサンドラでしょ！」

と断言したので。

「サンドラ」または「サンダー（雷）姫」もしくは「女帝」「雷帝」「雪の女王」エトセトラ。が...

彼女の、愛称になった。

銀白の長いもっふもふの毛並みを誇る...

たいそう、誇り高い姫様であったと...

直接に知るひとびとは、語る。

(承) 学生時代 (3) 学祭参加

『華麗なる。

リズムカルな。

心浮きたつような...

高齢者は、懐かしくて！

思わず、踊り出すような...

賑やかなメロディラインが。

構内に響き渡った。

同時に。

数十人が。

走りだした...

《下駄》で。』

当時の学内誌はこう語る。

それはスキップ数回を重ねて大学院の最終過程に至り卒業を控えた弱冠十五歳のトキが。

それまでは他者の企画の手伝いや、所属するゼミの一員としての参加ばかりだった学祭に。

初めて。

自分自身で企画立案・設計作成した『発明品』を引っ提げて。

その『商品』の『発表の場』として学祭を利用した...

記念すべき、日であった。

デモンストレーションは学園内の複数個所で、『同時多発ゲリラ演武』的に行なわれた。

(実際には、周到に計算され用意され、きちんと申請し許可された、『連動イベント』だったのだが...)

ある廊下では。

突如として天井から人が降った。

ニンジャの装束をしていた。

通りすがりの女性が悲鳴をあげた。

と見せて。

突如として一般客風の衣装を脱ぎ捨てて...『変身!』した...!?

「きさま奇襲とは卑怯なり!」

「勝ったものの勝ちよ!」

...は?

なんだなんだ...と、本当に通りすがっただけの一般客や学生たちは、眼を点にした。

短い、大立ち回り。

剣戟の効果音と、繰り出される美女の生脚まわし蹴りッ!

...おおッ!

と歓声と注目が集まる。

と。

「...くッ！ 逃げるが勝ちか！」

「きさまどこまで卑怯なんだッ！」

逃げ出す奇襲忍者と、追いつがる『傾奇装束』の美女剣士。

...下駄。と見えていた二人の足元が。

突如として、変化した。

カチッという軽快な音とともに...

高速駆動のインラインローラースケートに、

...化けた？ ...のである...！

なめらかに高速で移動しながらの大立ち回りは、あっという間に遠ざかり。

次には、中庭で騒ぎが展開された。

複数の...時代めかしたキャラクター的な衣装の...

剣士だの野盗だの侍だの、忍者だのクノイチだの、妖術使いだの？ 風の連中が...

音も高く『下駄』踏み鳴らして現われ...

歌舞伎風に、大見えを切り...

一瞬で。

『下駄』が！

色鮮やかな...

ちょっと変わった形の...インライン・ローラースケートに！

変身して... 高速移動で...

闘いながら...

さまざまな『ローラー技』を披露し！

寸劇？ の終わりと同時に。

ぼーぜん... としている観客の前で。

びたり。と。

停まると同時に...

また、『下駄』に戻る...

総員、観客に礼をして、賑やかに『下駄』を踏み鳴らして...

退場。

そして空中や壁に。

簡潔明瞭にして購買意欲をそそる！

商品説明と。

次の演武の時間と場所が示されて...

その場は終わる。

あまりの格好良さに！

学内は、騒然とした。

「次どこ？ 次！」と。

場所を求めて移動する人群れのあまりの多さと。

興奮のあまり、非常識にして無作法なほどの、急行ぐあい。

自分たちの展示や興業イベントが邪魔をされたと、複数の苦情さえ...来た。

商品名は、『下駄 無礼駑』(GET_A_BLADE!)

トキが主導でプロの靴メーカー担当者と、協同研究の末。

最初から『商品化』目的として開発された、最初の『発明品』である。

最初は普通の『洋靴』の下に、日本の伝統的な『下駄』の二枚歯がよきっと生えている...

だけの履物のように、見える。

それはそれなりに新規で面白いし、歩いてみると車輪の収納スペースを兼ねているバネ状構造の反発力のおかげで、あんがい履き心地は良いし、速足で歩ける。

そして。

音声登録して特定の『呪文』を唱えるか。

両足を揃えて横にガンッと打ち付ける動作で、スイッチを押すと。

横向きに二枚並んだ『下駄歯』と見せかけた部分が。

縦に一の『インライン・ローラー』に変化する。

無事に間に合ったら、どちらかのつま先でカカトを蹴るか。

『おうちが一番いい!』というデフォルト呪文を唱えてカカトを三回鳴らすと。

ちょっと背が高くなるだけの『下駄』に戻して...

普通に?

歩ける。

広大な大学構内の。

次の講義に遅れそうで必死の駆け足移動！ という手合いに。

「一足いかがですか〜？」というのが、売りだ。

むろん、通勤通学や日頃のジョギング代わりに。

利用のしかたは色々提案できた。

(さらには。横向き二枚歯のままローラーにして、『横に滑る！』という裏技まで、ある！)

値段も手ごろだ。

お洒落なデザインを取り揃えて、サイズ展開も色々和多めに用意していたので。

初期製作分の3,000足は、ほぼ一瞬で！

売り切れた。

追加に次ぐ追加生産で。

製造委託先のメーカーは、悲鳴を上げつつ。

半年で売り上げと社員数を。

数倍に増やした。

*

ただし。

その後一年を待たずして、大学当局と、行政機関によって正式に。

『公道および一般道での使用禁止！』通達が、出された。

演武のお手本のプロのスケーターやらスタントマンやらの、人々が。

あまりに華麗！ かつ、滑らかで、易々と...動き回っていたので！

いきなり初心者が真似をしようとして、事故や怪我人が...

相次いだ、ためである…。

(トキらは呼び出されて警察署で説教を喰らった。)

その後は『スポーツ用品』として。

一定の初心者安全教習を受けた上で。

専用の競技場または認定遊技場でだけ、使える。

危険商品ということになったが。

奔りまわる爽快さと、

演武の寸劇仕立ての脚本の数々の…

面白さ。

チーム対抗の勝ち抜きゲーム試合が企画されるなどして…

根強い人気を誇る。

*

これが。

後に『トキのデビュー戦!』と呼ばれた『剣戟劇』の概要である。

(転) 青春時代 (1) 学生起業

より正確に言うならば。

彼が起業の意志を公表したのはスキップしまくった学生生活が全て修了した学院卒業式典の当日、帰宅前に校門前で受けた学内誌記者らの突撃インタビューに応えてのことであり。

代表取締役社長として登記を済ませたのは、当時の『3 P S』内の『法定成人年齢』である十六歳の誕生日を過ぎた翌日のことではあった。

しかしゴシップ誌や経済紙はセンセーショナルにこう書きたてた。

『学生起業！』

『天才少年社長、就任！』

等々と。

嫉視半分で、オトナたち、評論虫どもは、それぞれに酷評したおした。

いわく、

「学校しか知らない未経験な子どもが、ちょっとヒット商品を出したくらいで天狗になって！」

「世間を知らない若造が。他人を雇用し企業を運営するという責任の重さも解っていないとみえる！」

等々と...

同人活動のファンたちもまた、「むしろ職業作家の道を目指してほしかった！」という形で嘆いた。

世間の批判的には、弱冠十六歳の彼の独立起業を前向きに捉える論調のほうが少なかった。

卒業前の彼のもとに日参して、靴にキスせんばかりの勢いで。

「ぜひぜひ！ わが社の開発部門に！」と。

スカウト合戦を繰り広げた大手企業や有名研究所や老舗製作所の担当者らも良い顔はしなかった。

(いっそ早く失敗してくれれば。『その負債の肩代わりと引き換えに』と、再スカウトできるのに...)

というような。

思惑が乱れ飛ぶ中での船出であった。

しかし。

ほどなくして公表された社名が。

『銀河 映遊 電設』（ぎんが えいゆう でんせつ）であった。

同人活動のファン達ライバル達は速報を読んで一斉に笑い転げた。

「...むせた...w」

「いやマジで『無粋な泥水』噴いたわ今www」

等々と。

これは応援せざるを得まいと。

次々に。

『一口株主』にと応募する、おたく系ニワカ投資家たちがネットの窓口に殺到しまくった。

「おかげさまで。

ぼくを含め三十数名の立ち上げスタッフの。

初年度分の年棒だけは、すでに確保できました。」

と、公式HPに感謝の挨拶が載せられたのは、起業式からまだ一ヶ月も経ってはいない頃だった。

もとより筆頭株主が、元々の『孤児保護育成責任者』であった重鎮パベル社のオーナー。

『技術顧問』の肩書で名簿を飾るのが実の養育親にして『3 P S』設計施工責任者ジン・フェンルイ。

...これは、何かをしてくれる会社だぞ。...と。

ひとびとの期待は、わくわくと高まってきた。

*

最初は細かいアイデア商品の数々『百姓』シリーズだった。

学生時代より次々と取得していた小さな特許の技術を積み上げて。

ネット通販で細々とした日用雑貨の。デザインと利便性と話題性が勝負の。

小商いでのスタートだった。

やがて。

『指輪』型の小型端末『意図思惟使途』（いとしいしと）（＝『マイ・プレシャス』）を皮切りに。

続く超極薄型高機能タブレット『親直』（したじき）と『端垣』（はがき）シリーズも大好評を博し。

画面折り畳み端末『選素』（せんす）と筆記具サイズの『魔鬼物』（まきもの）は。

超！高価格ながら「ステイタス・シンボル」と讃頌されて富裕層からの注文生産依頼がひきもきらず。

折り畳み式自走運搬具『魔法の絨毯』（マジックカーペット）は生産体制が追いつかず品切れ続出。

『下駄無礼笏』の普及改良型（一般道路走行可能）『雪駄』（せった）は「一人一足！」の必需品に。

総じて『魅荷真夢』（みにまむ）シリーズと称された商品群の。

累計販売個数が『残存人類の総人口数を突破！』と。

短時日のうちに話題沸騰。

＊

客層と潜在ニーズが把握できてくると。

満を持して。

伝説のヒット商品、『寝落ち椅子』（NEO-CHEERS）が発表された。

むろんこれは着想自体はたいして目新しいものではない。

類似先行商品なら二十一世紀の頃からあった。

いわゆる『PCゲーム用リクライニング椅子』というやつだ。

しかしそのときまでは椅子は椅子であり、椅子以外の用途はなかった。

『寝落ち椅子』のすごいところは、椅子であると同時に寝心地の良さを誇る仮眠用寝台でもあり。

文字通り『寝落ち』したなら脳波を読み取って自動的にゲームや作業の保存や終了を代行してくれる。

寝冷えも風邪も寝違えも頭痛の心配もなく、朝まで熟睡できて。

時間がくれば確実に起こしてくれるし。

寝ぼけていれば朝食を口に突っ込んでくれるし。

さらに待てれば歯磨きまで自動でやってくれるし。

出勤の必要があれば着替え一式までハイと用意して。

なんならボタンかけやネクタイ結びとかまで、手伝ってくれるし。

出かける必要がないなら、座ったまま。

オプションで設置しておけば、トイレの用まで足せたりするし。

自動全身シャワー入浴&洗髪可能！

完全密閉温風乾燥式空調服。

なんて悪魔の誘惑な極楽オプションまであるし。

実は身動きに不自由なひと用なら。

褥瘡防止用揺動クッション装置なんかも追加設置が可能だし。

オプションで車輪と駆動部をアタッチすれば。

そのまま巨大な車椅子（または小型の四輪キャンパー？）として外出可能だし。

はたまた家にこもったままがいいなら。

壁の小窓をちょろっと開けるだけで。

デリバリーのピザ屋も稀少フィギュアの代引き宅配も。

らくらく受け取れたり、するし…。

とりあえず。

「他にもまだ何かご要望があれば、何でも言ってみて？」

…と。

トキ・マサトが。例の。デカ眼の童顔で、にーーーっこり♡と。

ネットCMで微笑む。

…ついた評価が…、

『人間をダメにする…例のアレ！』

『悪魔のギロチン台！』

はたまた、

『人類最終進化形態キターーーーッ！』

…等々、だった。

*

オプション選択の方向性は、予測通り三つに分かれた。

人間ひとりあたり縦横ナナメ『各2メートル四方』！という『究極の小部屋』を。

最低額家賃に対する最低保証単位とする宇宙都市『3 P S』内での極限の暮らしにおいて。

『人間らしい社会生活』の維持に要する、諸雑用に使うための空間容積を極限まで減らして。

残りのスペースを全て！

ありとあらゆる物欲コレクションを...

立体フィギュアだの今では大変貴重で稀少な紙製の本だのアイドルグッズだの服だの宝飾品だの...の、

収納に使いたい！

という、

『生活空間節約』需要型...第三位。

社会参加も収入活動もネットで済ませるし。

可能であるなら二度と部屋から出たくなんかない！（某イベント除く）

一生うす暗く...座ったまま。

ゲームとエロだけにまみれて、ひとり静かに逝きていきたい...

という。

『人生個室完結』願望型...第二位。

これまでの人生で。

地上の核戦争被災や発電所事故による被曝。

宇宙船外建築作業において受けた宇宙船被曝。

などによる加齢現象亢進症による...急激に悪化していく、身体不自由を。

可能なら、他人の同情の眼に曝さず。

他人に介護の面倒をかけたらず。

残る余生を、まだ無事な、脳を...フル活用して。

身体は箱に入れたままでも。

心は自由に。

美しいものを観て...

美味しいものを食べて...

「最期まで、生きることを愉しみたい！」...と、願う。

『身体不自由補填もしくは病状維持保全用外出函』 ニーズ派。...最大。

自分用に買う。

家族用に買う。

自宅用と出張先用に買う。

行政が生活弱者の緊急救済用に買う。

医療機関や富裕層が。

終末期ケア用に買う...

『銀河 映遊 電設』は...

当初の予測をはるかに超える...

売り上げを、稼いだ。

(転) 青春時代 (2) 宇宙進出

『寝落ち椅子』の『介護&生活生存ケア』用の数多の個別調整対応で蓄積された、

ノウハウを注ぎこんで。

『汎沐』(はんもっく)シリーズが発表された。

今までの小型有人宇宙船設計では。

『個室』スペースの確保は難しく。

『寝室』は無重力空間の釣り寝袋で原則雑魚寝。

いびきも寝言も夢精もつつぬけのプライバシーの無さだ。

『選ばれた』超絶優秀な天才スタッフだけが宇宙に行けるという悠長な時代なら、それでも良かった。

しかしもはやそんな余裕のある豊かな時代ではない。

口が悪かろうが協調性が無かろうが盗癖があろうが。

セクハラ野郎だろうが、男嫌いの陰険女であろうが。

技量さえあるなら、とにかく宇宙へ移住を！

という、時代だ。

開拓宇宙作業船内における『個室』スペースの確保は、喫緊の課題であった。

一方で。

どの船にも『緊急射出用個人型生命維持装置槽』（通称：棺桶）の。

『乗員人数分設置』は、義務づけられていた。

普段はそのスペースは余白の無駄空間だった。

「そこで。」

と、CM番組でトキとユリシロウの。

名物、美少年コンビが微笑む。

「今までの『共同寝室』スペースは不要になりました！

なぜなら『寝落椅子』改良型『汎沐』（ハンモック）なら、普段は寝室兼生活用個室として使用し。

緊急時には、そのままライフバッグとして、射出されて宇宙を漂流！ できるからです！」

乗り込んでいた船や、棲み着いていた基地が。

もしも、壊れたら。

今までのように、着の身着のままライフポッドに駆けこんで、失った大事な家族写真を嘆いたり。

はたまた、大事な私物を取りに戻って、結果として逃げ遅れて、死亡してしまったり...

しなくて、いい。

『総員緊急退避ッ！』と、言われたら。

ただ、棲み慣れた自分の寝床に駆け戻って跳び込んで。

「頭から布団をかぶって」震えていれば...

いいのだ。

射出は自動制御だ。

デブリ避けの航路選定も、自動でやってくれるから。

揺動が収まり、震動が収まり、無重力空間のなかで...

沈黙に、耐えられなくなったら。

太陽光発電が使えるなら遠距離救難信号と一緒に一般通話回線だって開けるし。

それがダメでも。

大事な持ち物の数々と一緒に、聴き慣れた音楽が聴けて...

撮り溜めた録画の数々でも、観ながら。

気を落ち着けて...

自分の寝床で。

「必ず救助が来る！...と、信じて、待っててくれさえすれば... いいんです！」

それに、『自動帰還システム』搭載なので。

最後の射出ポイントから最短コースで...

『月面周回軌道』近傍まで。

戻るベクトルに...

乗せられてる、はず。

「最長で三か月間！ 救助されるまで正気を失わず生存可能！ という実験結果が出ます！」

...と。

既存の宇宙船建造メーカーはこぞって一斉にこれに飛びついた。

もはや製造が弱小新興起業『銀河映遊電設』一社だけでは、

追いつかないことは明白で。

トキは気前よく、破格の安値で『特許使用権』を広く頒布した。

この発売を記念して。

社内では『記念すべき宇宙進出！』と呼ばれる。

＊

その驚異的な『特許権販売』の売り上げを注ぎ込んで。

記録的な速さで、新研究工場が建設された。

次の発表までは、今までになく... 数ヶ月間の... 空白期間があいた。

＊

まずは新開発の新素材が発表された。

そして、その素材の特性をフル活用した、

『ニッティング工法』と... 実装機『編み姫』（あみき）。

『ジップアップ工法』と... 実装機『織り姫』（おりひめ）。

全世界の技術者が。

あっ！と、

どよめいた。

それはもちろん既存の技術概念から大きくはずれたものではなかった。

むしろ地球上の二十～二十一世紀に実在した、某国の某器具や某文具に。

原案はそっくりだった。

しかし。

スペースデブリ対策に。

宇宙船建造の省力化に。

月面基地建設合理化に。

転用しよう、という発想力は...

「さすが！」と、人々をうならせた...

新素材の名称が『己癒貴』（みゆき）と決められたのは。

その形状が基本「... 糸、だから？」

...というトキたち製造陣の説明に。

日系の古老たちだけは即座に含みを理解して、ふふふと微笑んだ。

*

熔融原料状態の『みゆき』を整備完了した『あみき』に充填して。

月面目標地点まで走らせる。（遠距離の場合は、運ぶ。）

『あみき』は、これもゲンを担いだのかどうか、八本脚の蜘蛛に似た形状をしている。

『アミちゃん』という愛称を、トキは説明動画で連呼していたが。

定められた直系分の真円形に。

まずアミちゃんは月面を歩きながら『糸』をうねうねと吐き出していく。

最初の地点に戻る。

アミちゃんが最初のうねうねの山の部分に、次の糸を擲めて。

『編み込みながら』前の糸を登って歩いて行って...

また一周して。

元の地点に戻ったら、二段目を、編みながら...

また這い昇って、歩いて行って...

ぐるぐると。

当初充填された量だけでは足りない場合には。

途中で『ミュちゃん』を『アミちゃん』に。

補給する必要だけは、あるが。

ほぼ全自動で...

半円形のドームが！

月面に、

短期間で... 編み上がる。

「で、ここからが肝心で...」

編み上がったニット帽の形の骨組みの上から。

今度は、天幕状に。

隙間なく、布状になるように広げて...

ミュちゃんを、散布する。

次いで床にも一面に分厚く。

ミュちゃんを... 散布して、敷きつめる。

接合部を厳密に圧着して。

気密性と保温性が確認されたら...

人間が。

中に入って...

宇宙服を脱いで...

居住スペースの骨組みをぱっと広げて固定して。

内装建築作業に、すぐに取り掛かれる...

(この業務には、宇宙作業資格の取得は必要なかった！地上からの移住者が、即、就職できた！)

驚異的に。

月面移住基地拡張工事の進捗スピードが上がった。

*

『ジップアップ工法』はこの応用だった。

『アミちゃん』を宇宙空間まで連れて行く。

しかし重力が一切無い場所では、アミちゃんは上手に真円を描くことが出来ない。

とりあえず糸を吐かせる。

アミちゃんの横幅分の細いリボンを編ませる。

その、長く伸びた包帯を。

『オリちゃん』こと『おりひめ』が...

「中身がカラっぽのミイラを巻いて造形するがごとくに...」

と、ユリシロウは表現したが。

宇宙空間に。

渦巻き状に。

巻いて、巻いて...

ぐるぐるに巻いて...

その綴じ目を、ジッパー式に。

綴じこんで。

綴じ付けていく。

短期間で。

これも、ほぼ、全自動で。

『葉巻型宇宙船』の外郭構造が...

組み上がる。

*

この場合、『おりひめ』と『みゆき』の最大の、活用点は。

一旦『糸』として固着して、『帯』として膜状化が完成されると。

どんなスペースデブリや隕石の急襲にも耐えて『跳ね返せる』弾力性と耐塵性。

そして。

既存の宇宙船や宇宙基地の周囲にも。

短時日で。

あらためて『みゆき』の『糸』を、編んで、張り巡らせて、デブリ対策を強化できる...

その、点だった。

外郭の老朽化に伴い日々にデブリ崩壊の危機に怯えて暮らしていた旧来型のスペースコロニー移民は。

泣きむせんで、この技術発表を歓迎した。

むろんトキは喜んで格安で。

技術使用権をすべてオープンにした。

短時日のうちに。

『宇宙生活の安心!』は、一挙に普及され、人々に笑顔が広がった。

*

社内では、これを『第二の宇宙進出』と呼んで、記念日を祝うことにしている。

(転) 青春時代 (3) 世界創造

破格の安値で特許使用権を売りまくったが、それでも莫大な利益を産んだ。

ここで経営首脳陣たちは合議の上。

『銀河映遊電設』における『初期作品』、

『ミニマム・シリーズ』製造販売部分を。

分社化して子会社となし、責任を分離した。

同時に『寝落ち椅子』と『汎沐』の製造改良ラインも。

別部門として立ち上げ、独立採算性にした。

既存の従業員の。

生活を護るためと。

これから始まる一大事業に。

全力で傾注するためである。

*

満を持して、新社名『多照是』(Ta Te Ru Ze!)と。

一大プロジェクトが...

発表された。

これから、新・宇宙居住基地...群の。

民間一社での。

独自建設展開と。

個人客向けの。

分譲販売を、開始する。

...と、宣言しても。

もはや、誰も。

驚かなかった。

歓呼と歓迎の。

大歓声が、わき起こった。

*

当時の宇宙居住者と居住スペース群の特徴は、大別して五つに分かれる。

元々の地表の『国家』単位で開発競争が展開された『軌道基地』群の。

研究または軍事目的の小規模施設。

歴史的には最も古いが、人口割合的には極少。

主な『本国』籍はアメリカ・ロシア・中国・インド。

次に、やはり『国家』単位で近年急増乱立した『避難移住用』スペースコロニー群。

人数的には比較的多数派を占めるが、人種と職業と性別と年齢構成が、極端に偏っていて。

いわゆる『自称・エリート』たち。

国民と国土を見捨てて自分たちだけ『安全な』宇宙へと逃げ出してきた『支配者』や『権

力者』。

自己評価だけは『選良』『優越民族』等とやたらと高い。

『宇宙近所』づきあいには向かない、ありがたくない手合いが、かなり。

主な『本国』籍はやはりアメリカ・ロシア・中国・インドの四大国『エリート層』に加え。

新日本皇国を筆頭として、軍事独裁（民衆弾圧）政権が支配する二流三流の劣勢諸国からも。

多数の無責任な逃亡者たちが宇宙に流入していた。

そして。

いわゆる超国家・無国籍資本と呼ばれる。

欧州とアラブ・アフリカ系人種を中心とする、血族結社的な複数の巨大企業連合が。

総力を挙げて血筋の者たちを送り込んできた『純血保存コロニー』。

なるものが多数乱造され、さらに新たに展開されつつあった。

ところが。

最初期の宇宙移住で粗製乱造された資本家コロニー群は。

納期圧迫のあおりで設計も施工も雑な上に。

緊急避難的に詰め込まれた人々で…

人口密度が、異様に高かった。

それまで地上で広大な所領を誇り。

豪勢で自儘な暮らしに慣れてきた資本家一族主流派の者たちは。

移住後まもないうちからその居住性のあまりの悪さに。

大いに不平不満を鳴らしまくっていた。

また、事故や老朽化による『強制転居』も多く。

「ゲッターじゃないか！」と罵られるほどに劣悪な生活環境のコロニーも、増えてきていた。

デブリや隕石にも弱く。自爆事故も多く。

そのたびに救援活動を迫られる近隣他コロニー群の大きな負担ともなっていた。

そして総人口的な意味での最大派閥がむろん『3 P S』を中心とする非政府（NGO）組織『F I F S』系の民間個人移住者たちと。

その盟友たる被差別民族特殊技能者避難移住集団『L E ・ MOON』の二拠点だったが。

かなり丁寧な設計施工を誇り、居住性にも最善の配慮を尽くした『3 P S』でも。

『協力者』みな平等！ という建前の...もと。

巨額の私財を「惜しみなく」寄付したと自負する個人的な大富豪らからは。

その寄付金額に見合わぬ居住性の低さ（特に狭さ）が不満だ！ と...

大いに、嘆かれていた。

*

地表環境が今や風前の灯となり今なお多数の生命が危急存亡の状態に放置されている。

あいかわらず、宇宙空間へと「移動しただけ」の権力者や資本家たちは。

仮想通貨なる幻影の多寡を競って、暗愚なつばぜり合いを繰り広げているのだったが。

「そこ、ビジネスチャンス。…だよな？」

トキは幹部会議の席上で、にっこり！と、笑った。

「高くても良いものがあつたら。カネに糸目はつけない。幾ら高くても買う！

ってお客さんが。

結構たくさん、いるわけだから…」

住民の不平不満は。政治的火種？ という杞憂の種ではなく。

イコール、潜在的（優良）顧客層！

だと、発想のコペルニクス的な大転換を、求めたわけだ…。

だって。

技術はある。

設備もある。

スタッフも揃ってる。

資本金も人脈も。

販売ルートもある。

「…つukらないテは、無いでしょ？」

*

発表された建造計画は、大別して二ブランド。

『DANCHI』シリーズは。

いわゆる『建売分譲または集合住宅個室権利販売』型で。

母体となる、地球または月の周回軌道上の、宇宙居住基地自体は、あくまでも『タテルゼ』社の所有。

その中の一棟の戸建て住宅または集合住宅内の一室を『間取りと内装の個別選択注文製作権付き』で。

『生涯占有権』を販売する。

(原則として『世代間相続』はできない)。

これだって『3 P S』内の最低保証容積「一人2 m (E) 2 m (E) 2 m」空間に比べれば。

夢のような...

広さだ。

公表された予想価格帯と建築予定戸数と所要年数表を前に。

庶民たちは一斉に、「買うぜっ！」

...と。

一気に購買意欲と勤労意欲と。

個人資産形成・運用意欲を...

かきたてられた。

*

『WAGAYA』シリーズは。

地上においては『超・資産家』と呼ばれてきた極少数派の一族や、...人々の。

いわゆる『失われたステイタス・シンボル』を、補って余りある...であろう。

『個人所有用』『宇宙邸宅』の。

受託注文建築販売...計画だった。

『最低請負価格』とその『最低保証・標準仕様』が発表された瞬間。

やはり資産家たちはどよめいた。

「買うぞ!...わしが一番乗りだ!」

「何を言うの? 私のほうがその倍額は払うわ!」

先を争って「最初に!」「より豪華に!」と。

激しい自己主張合戦を繰り広げる...

富裕層たちの対応は。

タテルゼ社の新(名物)幹部で、元・新興宗教? 指導者の。

ニョゼ・ガモン師が。

交通整理を引き受けた。

＊

まずは『DANCHI』シリーズの一号棟から。

建築販売が始まった。

建てて売って。

建てて売って。

建てて売って。

基本の外郭設計は順次改良が重ねられていく他は単一で。

すぐに独立した生産ラインが構築されて。

責任者が任命され。

ひたすら『働きアリのように』。

建てて建てて、販売しまくった。

建築資材は地上と月面と『LEMOON』から採掘輸送されるほか。

アステロイド・ベルトからの『長距離採集』も。

試験的に始められていた。

すぐに。

リング状に地球を取り巻く首飾りのような『周回軌道団地列車』が...

地上に取り残された人々からは。

『希望の青い星々』と。

皮肉られるように...

なった。

*

建築実務担当者たちの業務内容としては『WAGAYA』のほうが大難関だった。

とにかく『お客様のご希望』が、千差万別で。

一番多い注文が『けして他の邸宅とは似通わないように！』

「設計図の流用とか二番煎じとか、恥ずかしいものは絶対にやめてちょうだい！」

...と、いうわけだ。

とにかく『クライアントのご希望を、ことこまかに細部にわたるまで正確にお伺い』して。

設計しては没！ だの、ダメ出しだの軌道修正だの。

施工直前になっての一から全面改訂！ だの…。

徹夜に次ぐ徹夜。

悲鳴に次ぐ悲鳴。

折衝係と設計部と資材調達係の間では常に殺伐とした怒号が飛び交い。

「…残業代支出のほう固定年棒より多いブラック企業に…」

と、人事部長を嘆かせた。

しかしとにかく仕事は多かった。

のちにこの十数年間は。

「毎日が学祭のようだった。」と。

苦笑とともに懐かしく語られる日々となった。

(破) 友の物語

この時期、トキ・マサトはとにかくひたすら多忙の日々だった。

「いくら払ってもいいわ！ どこか一カ所だけでもいい。

『トキ本人に』『オリジナルな設計を』してもらったと、

自慢できる部分が欲しいの！」

...という。

ファン心理なのかステイタス自慢なのか？

判然としない『特注』が。

やたらと多かったからである...

「からだ壊すよっ？」

往時の『天才児クラス』入学式当日からの親友であり、タテルゼ社の総支配人でもある由利士郎は。

常に心配していた。

「う〜ん... まだ大丈夫... たぶんね... ☆」

なかば寝ぼけ眼の。

何日も入浴すらまともにしていない、よれよれの汚れ姿で呟きながら。

トキはとにかく大量の。

設計施工図面の作製だの修正だのに、ひたすら取り組んでいた。

これ以上よけいな仕事を増やさせるな！ と、ユリシロウは営業部門に厳命しようとしたが。

「とにかく1 cc (宇宙通貨) でもいいから、多く払わせて！」

...という『WAGAYA』シリーズ受注に際しての、トキの基本方針のほうが常に優先とされた。

(むろん金持ち向けの『WAGAYA』で。四苦八苦しながら稼いだ分で。

庶民向けの『DANCHI』シリーズは。破格の安さで。

急ピッチで建造され、分譲されていたので...)

*

「... 部屋に寝に帰るヒマもない...」

とは、トキ本人も嘆いてはいて。

特に心配していたのが。愛犬レックと愛猫サンドラの。

ご飯と散歩の世話である...。

「おれが行きましょうか？」

代わりに申し出たのは。

『WAGAYA』シリーズの細部最終設計と資材数算定・発注部門を担当していた、平社員の。

ポール・堅井 工 (かたい・たくみ) = デ・オーエンだった。

たまたま比較的「定時で帰れる」部署の勤務で。

たまたまトキの個人アパートと部屋が近かった。

というだけの縁ではあったが。

「レックとサンドラが懐いているから」と。

本来はかなりのいわゆる『人見知り』である、トキの心証も非常に良くなり。

「お礼に」と。

時間のある時にはご飯を奢ったり。

一緒に酒を飲み歩いたり...

飲み過ぎれば、そのままお互いの部屋に泊まりあったり...

する、仲になった。

「あのふたり、デキてるの？ ただのモフリ仲間なの？」

と、周りの人間は微妙に勘ぐったり、探りを入れたり、していたが。

「もふり仲間〜♪」

と、トキは元気に明瞭に解答し。

その返事を聴くたびに、タクミはびみょう〜な顔をするけど...？

と、というのが、周囲の観察状況のまま。

多忙にまぎれ。

いつしか、関心も薄れていった。

*

「...うんいいよ？ 来れば？ 今日は四匹とも、家にいるよ〜？」

...と。

トキが。

タクミまでをも含めて『総勢四匹』の『同居家族』と。

数えるようになっていたことに。

親しいスタッフらが気がついたのは。

『WAGAYA』シリーズの予約受注生産リストが終わりに近づいて。

ようやくそれぞれが自分の今後の人生を。

ゆっくり考える？ 余裕ができた...？

と、思った。

その一瞬の。

すきまの日々の、できごとだった...。

(結) 黄金時代 (1) 私財喜捨

いよいよ本題である。

後にタテルゼ社史において『大建造時代』と呼ばれた時期の後半。

明らかに『WAGAYA』の受注生産がひと段落して落ち着き。

年間製造予定と勤務スケジュールに、空白が目立ち始めた。

増産に次ぐ増産、徹夜に次ぐ徹夜の、突貫工事で働き続けてきた、

(特に日系の) ワーカホリック患者な建築労働者たちは。

空欄の滲出を観てどよめいた。

「どうする...? 仕事、無くなっちゃうんじゃないのか...??」

当時の『宇宙人口』は、実に五百万を超えた! と、考えられていた。

(一部の『国家系』軍事基地などが正確な人数を公表していないため、あくまで推算ではあった。)

地表の、比較的安全が保たれていた、地域在住で。

元々、治安が良いあたりで、教育レベルも高くて。

地表におけるキャリアと(ほぼ無価値に近づきつつある不動産などの)個人資産を。

えいっと!

勇気を出して。

全て、投げ売って...

自力で、『宇宙移民を！』と、志すだけの経済力と意志力のある、(まだ存命中の)人間は...

「ほぼ全て」宇宙に移住済みだ。

(その他の『権力者と富裕層とその使役者階級たちは。すべて地下都市への移住を済ませた。)

...と、この時点で、考えられていた。

当初ギユウ詰めだった『3PS』からも。

超のつく資産家と、大家族で比較的裕福な庶民層が。

せっせと蓄財しては『DANCHI』や『WAGAYA』を購入して。

転居者が多く出たため。

残った一般庶民(貧しめの)層にも。

比較的余裕のあるスペースが。

貸与されるようになっていた。

「...どうする...？」

「...仕事、無くなっちゃうんじゃないのか...??」

宇宙建築業従事者たちは、不安にどよめいていた。

*

その頃、さらに不穏なことに。

タテルゼ社の重要幹部同士で、仲違いが起きた！

と。

無責任な低俗報道陣が。

スッパ抜いて、騒ぎ立てた。

それまではいつも、

『双子のように仲が良い』

『タテルゼ社の双看板』

『いや双美人だろw』

『表裏一体の重鎮陣』

等と評されて来た。

特に、

社長のトキ・マサト本人と。

副社長で「社長より発言力がある」とされてきた...

ユリ・シロウが。

深夜に激高して口論していた。

とか。

ユリがトキの横っつらを引っぱたいて！

慌てた周囲から必死に制止されていた。

などなど...

株価は乱高下した。

下がった株価を、筆頭株主であるパペル社が、必死で買い支えた...

と。

噂が、

噂を呼んだ。

＊

新規建築計画が発表された。

発注者は、『パペル社』オーナー社長個人。とあった。

むろんタテルゼ社の筆頭持株会社（親会社）であるパペル社の。

その時点での配当保有資産額はまさに『天文学的！』であり。

そのオーナーが個人資産で『WAGAYA』を新規購入することくらい。

もちろん容易であろうと。

当初、周囲は思った。

（そして、急場しのぎで付け焼刃の、ほんの一時的な『失業対策』に過ぎないのではないか？ とも...）

しかし配布された設計図と、その数量を見て、関係者は一斉に首をひねった。

今までに建造された『最低家賃の』『DANCHI』シリーズよりも...

さらに、簡易で安価で。

居住性の... 低そうな。

「...ガヌダムじゃなくて、ジヌだよな？」と。

某人気アニメシリーズのロボット名称で。

喩えられたような...

安全性だけは、しっかり確保して。

あとはどうでもいい。と、いう感じの。

「これは... 何というか... 『避難用仮設住宅』的な...？」

と、ネット司会者は番組内で呟いた。

そんな構築物が。

「とりあえず、なるはやで... 百基？」というのが。

謎めいた微笑で質問をはぐらかす。

パペル社オーナー個人の。

発注だった...

*

やがて。

『噂通りユリ・シロウに引っぱたかれた痕だ』とささやかれる鬱血色の手形を。

いまだに頬に刻んだままで。

ちょっと苦笑いしながら、トキが『合同記者会見』場に姿を表した。

横に貼りつくように控えているのは、やはり仲良しの副社長ではなく。

『元・宗教？ 家』という肩書が付く、色物の、ニョゼ・ガモン師で。

居並ぶタテルゼ社首脳陣の端っこへの、隅への、方に。

いかにも無然とした顔で、嫌そうに。

話題の副社長も。

しぶしぶといった態で、同席していた。

「今回発表されると言うのは、社内改組の問題とか...

副社長更迭！？とか。

まさかの会社解散？とか、...噂になっていますが...？」

記者会見場の司会者役を引き受けた某人気アナウンサーがまず質問から始めた。

「...それ、全然、ちがくて〜...」

トキは『営業用』スマイルではない、ほぼ素の表情で。

苦笑いして否定した。

「今回は。ぼく個人から皆様に大きなお願いがあって！

一刻も早く、一人でも多くに、広く情報を広めて呼び掛けて頂きたいために、

申しわけありませんがこうして集まって頂きました。

このプロジェクト自体の発注者は、ぼく個人。です。

法的親権者でもあるこちらのパペル社オーナーの全面的賛同と資金援助は得ていますが。

あくまでも、発案者はぼく個人で。

そのことで、社内で反対を受けた、というのは、単なる事実なんです。

ぼく、この十数年で、とても儲かりました。

ぼったくり！と怒られましたが、『WAGAYA』シリーズを言い値の高額で買い取って下さった、

資産家の皆さんには、心から感謝をしています。

で、ですね...。

『3 P S』法規によれば、遺産相続、は、認められていません。

元より、ぼくと個人的パートナーは同性なので、遺産を継がせる子どももいません。

で、ですね…。

ぼく個人のお金を全部、死ぬまでに、使い切るために。

地上の、まだ残っている人たちを、すべて！

サルベージする…

そういうプロジェクトを。

立ち上げたくて。ですね…？」

どよ！

…と。

中継をリアルタイムで観ていた。

全宇宙人口が、いっせいにどよめいた。

*

「…『ネビュ・ファンド』再び…！」

と、速報は一斉に報じた。

「いや、『F I F S』は今回は、後追い便乗させていただきただけなんですよ。

あくまでも、言い出しっぺは、トキさん個人なんで…」

にっこりと微笑む、S F界の重鎮に。

「ああ、実は。

ずいぶん前から、根回しされて…

周到に、用意されてきた...

計画。だったんだな...！」

と、視聴者たちはおのずから合点せざるを、得なかった...

(実際、ほとんど私生活にカネをかけていない風情の... 着たきりスズメのトキが。

なぜ、『WAGAYA』シリーズの収益性に関してだけ。

どうして『銭ゲバ!』だの『守銭奴!』だのと罵られるような価格設定なのか...

は。

常々、『宇宙生活三大不思議』などと話題にされてきては、いた。)

取材陣も報道各社も、右往左往して情報を集めた。

*

「まだ、地表に...

放射能と化学毒と地震と噴火と津波と独裁政権と武装勢力に怯えながら...

右往左往している...

難民の人たちが、いるでしょ？」

「野生のいきものたちも...

まだ、少しだけど... 生き残って...

いるでしょ？」

トキは。ほどなくして公表された『資金&ボランティア大募集!』の呼びかけ動画において。

切切と、

訴えた。

「ぼく、そのひとたちを、拾いたいんです。…ぜんぶ。」

「ぼく、自分のお金をすべて遣いたいと思います。…そのために。」

「でも、ぼく個人だけじゃ、やっぱり、とてもじゃないけど…無理なんです。」

「移送用の船と、緊急一時避難移住用の仮設住宅は。ぼくらで。用意できます。」

「でも、誰かが。

危険な地上と、宇宙とを。

何往復もして…

実際に『拾う作業』（サルベージ）を。

手伝ってくれないと…」

「ひとりでは。無理なんです。」

「あなたのちからを。

…貸してもらえませんか…？」

*

むろん。

「自分たちからは大金をばったくったくせに！」という反発は、嵐のように起こった。

「地表の財産をすべて投げうって！自力で！

宇宙移住を敢行して、無一文となった『選良』たる、我々に対して。

『無料で』無能な…貧民たちを…

わざわざ、救う？

その手伝いをしろとは...

どういう料簡だ?!」

「タダで宇宙移住ができるなんて...

難民、ずるいッ！」

...と、というような非難も。

*

しかし、そもそもの『3 P S』初期計画の支援者たちは、...

歓呼した。

「自分らも、『遺産』は、すべてそのために使うぞッ！ 飲んで！ すべて寄付するッ！」

そうした『第一世代』たちに、連れられて。

ほんの幼い頃に、宇宙移住をした者たちや。

『宇宙生まれで地球を知らない』第二世代、たちは...

「いちど地球に降りてみたかった！」

「...パイロット！ やりまーすッ！」

「看護師です！ 地表の受け入れキャンプ？ とかで働かせて下さいッ！」

と...

志願者は、山津波のように...

押し寄せた。

(結) 黄金時代 (2) 箱舟建造

タテルゼの社内資料では当初の名称候補を『NAGAYA』『SYAKUYA』『GESYUKU』等としていた。

『NAGAYA』は激安商品なのに

『WAGAYA』と混同され過ぎる！ と、

超のつく高額高級！ 宇宙住宅のステイタスシンボル性を重んじる富裕層から速攻でクレームが入った。

『GESYUKU』は

『強制収容所』（ゲッター）を想起させると。

かつて辛酸を舐めた被差別民族から苦情が届いた。

それではと。

設計図と外観予想図が公開されて。

有料『命名権』とセットで公募が行なわれ。

投票を経て決定された製品名は。

『NORIMAKI』

『FUTOMAKI』

『KUSHIYAKI』

に、

『 INARI 』

『 NIGIRI 』。

『 CHIRASHI 』に

『 DONBURI 』と、来たもんだ。(むろん『命名権』を獲得したのは日系外食産業であった。)

基本構想発案者にして原図設計者のトキマサトは、腹を抱えて笑い転げた。

*

『 NORIMAKI 』は「個人」(単身)避難者用宇宙生活衛星だ。

ミニマムな空間にギッシリミッチリと『改良型・寝落ち椅子』たる通称『棺桶』ベッドが詰め込まれ。

狭く折れ曲がった通路は『蟹工船』かッ！ と。

取材陣や『体験宿泊』ツアーに参加したボランティア勢からはたいそうな酷評を頂いた。

最低保証容積が一人あたま『1 m ⊗ 1 m ⊗ 2 m』と。極小なのだから居住性もへったくれも無い。

『 FUTOMAKI 』は、家族または一族単位でのグループ避難移住者用だ。

ひとり当たり最低保証容積『1 m ⊗ 1 m ⊗ 2 m』 ⊗ 人数分。で用意され。

床に雑魚寝の広間型か、三段ベッド状の『棺桶』が部屋の半分を占める『半個室』型かは、

それぞれの民族文化的背景別に、指定することが出来る。

(場合によっては一族中の男女別で連結二室式などの配分応用も可能)。

『KUSHIYAKI』は、救済された野生動物たちのための『生態系保全』用。

別称はそのまま『ZOO』だった。

『INARI』は地表上に集められた避難民たちの一時待機宿泊&医療用の海洋船舶。

『NIGIRI』は地表⇄無重力高度までの往復用小型舟艇。(部分的に付け外し式の使い捨て型)。

『CHIRASHI』と『DONNBURI』は、『地表残留』か『地底に避難』を選ぶ人たち用の。

簡易だが堅牢な穴蔵居住ドームだ。

*

それまでタテルゼ社で宇宙邸宅建築に携わってきた技術者たちは異動先の希望を提出させられた。

『宇宙建築』部門に残留希望組はそのまま変更なし。

『INARI』と『NIGIRI』建造組への異動を希望した者たちは。

新設部門を『FUNA-DAIKU』組と命名された。

ドイツ人『棟梁』は団結式にあたって拳を突き上げて威勢よく叫んだ。

「フーナ・ダーイク！」

それはそのまま作業引継ぎ時などごとの、定番の合言葉となった。

『CHIRASHI』と『DONNBURI』は、建造自体が地表での危険作業となった。

最も困難な分野だ。

志願技術者たちが募られた他、もっぱら地表残留の難民自身を採用して、技術教育しな

がらの建設作業予定となった。

*

地表に細々と生存していた『良心的政府』や『人道NGO』などの活動拠点と連携が図られた。

旧カナダ中央山岳地帯・南米南部大平原・南極大陸・豪州・旧ロシア氷原など。

比較的、地震や津波や原発災厄の被害が少なかった地域が、選定されて。

難民たちの一次収容と検疫のための施設が、着々と建造された。

(結) 黄金時代 (3) 生命救済

まず緊急の課題とされたのは海洋漂泊難民だった。

度重なる津波と全球高熱化と氷河と両極大陸氷山の溶融による、海面上昇で。

住処も国土自体すらも失い。

人ひとりの肩幅もないような木造小舟や。

ドラム缶で組んだ急造イカダで。

救助されるアテもまったく無いままに...

漁獲を雨水だけを唯一の頼りに...

長期間、海原を漂流していた民に。

まずは、『助けに来たんだ。海賊じゃないから!』と。

意思疎通を図るための、海域民族語の話せる通訳探しから、始まった。

難航した。

荒れる海から。

津波の到達直前に。

ぎりぎりの... 上空ホバリングで。

一人でも多く、釣り上げて、避難を...!

と。

文字通り、命を懸けて、命を落とす...

そんなボランティア・スタッフも続出した。

それでも。

「目標・毎日百人を宇宙へ！」...と。

現地での救済活動に参加を志願する若者たちは後を絶たなかった。

*

海洋避難民たちの収容がおおむね終わると。

陸部を放浪する者たち救済される番になった。

まだいくらかは生存に余裕のある立場の者たちは。

逆に。

「タダで救済？ 胡散臭い！」と、懐疑的に忌避した。

「収容と検疫と医療と輸送は無償。

当初一年間の衣食住と最低限の『宇宙市民義務』教育と基本的な職業教育に関わる費用は無利息貸与。

当初職業は無料紹介。収入から天引きで当初生活費用を返済。

その後の職業選択と、返済前でも自力での転職・転居は自由。」

「当初最低保証空間は『2 m ⊗ 1 m ⊗ 1 m』の『個室寝床』！」

「持って行ける荷物は、一人30 ⊗ 30 ⊗ 30 cm の箱のみ！」等々。

厳しい条件と、不信感で。

あえて『地表残留』を選ぶ者も...

やはり、多かった。

*

「余裕をもった早目の避難勧奨」は、早目に諦められた。

『緊急生命救助！』活動が最優先と、看做された。

巨大地震の発生直後。

遠方津波の到達目前。

致死性の高い感染症が蔓延している地域...

ぎりぎりの死線をさまよう人たちに。

後日、「ひとさらい！」と。

恨まれるような...

強引さも、一部に含んで。

最前線からの救済用小型舟艇と、宇宙打ち上げ往復舟艇は。

必死で。

善意で。

活動を、続けた。

そんな日々が。

何年も続いた。

*

一方で。

宇宙空間は。

増え続ける人口に、賑わい。

今を盛り！ と。

活気を溢れさせていた。

愚にもつかぬ権力闘争と。

権勢を競い、ムダに浪費し。

競争のために弱者を殺し。

軍事力を得て、他の宇宙基地を制圧しようとする。

バカモノどもも、再び、現われた…。

それらを一喝し制圧することで頭角を現した者が日系人の 豪田 行（ゴード・ユク）
だった。

トキ・マサトラは全面的に賛同し、資金援助した。

新たな『宇宙移民者連合』という平和共存を旨とする。

自称『太陽系統一（予定）政権』が樹立された。

安定を得た宇宙での生活においては。

失われた地球の生活の。

置いてこざるを得なかった逸失物を懐かしみ、惜しむ者も多かった。

地表に。

捨て去られた、大量の遺構や廃墟から。

何やかやと『発掘』や『盗掘』や…の。

物品を、宇宙へ運んで売買する。

そういう稼業と売買のルートが、あっという間に拓かれた。

*

ニョゼ・ガモン提案で。

『不信感から地表残留』組たちに対して、提案が、為された。

「地表の文物を採集して販売してほしい。その交換易を積み立てて、いずれ自らで『宇宙移住基地』を購入する予定... と、いうのは、どうか？」

「こちらの指定する文化財や文献を発掘してきてくれるなら、対価として食糧や水を支払う。」等々。

「対等な商売」関係を構築することによって。

先行宇宙移民勢は、地表残存組からの怨嗟と不審の声を払拭しえた。

のちの時代。

『終末獣』と名乗る一種のテロ組織が『地表全生命の抹殺』を含む『粛清計画』を発動させた時。

残存人類が速やかに救済船団によって回収され、避難し得たのは、この往時の取り決めに依る。

その後の地表に残るのは。

ただ。

漂白され抹殺され、有害致死性ウィルスさえも一株として残らぬ。

不毛の。

死の。

砂漠ばかりであった…。

*

これが。

のちのちの時代にまで永く語り継がれた。

『電設の伝説』 こと。

生命皆救済！ を掲げ謳い、成し遂げた…

(と、される)。

トキ・マサトの概要である。

(急) 父の物語

その患者はボロボロのよれよれだった。

本人ももうそれ以上の「無駄な延命」は望んでいなかったのだ。

最終末期医療の苦痛緩和措置だけを受けていた。

個室で孤独のままに死ぬのだけは嫌だという希望だったので。

体調が許す限り、昼間は他の患者も集まる大きな居間の一角で。

観るともなしに、壁面の大画像速報やドラマを。

眺めてはうとうととまどろんでいる...

そんな、最期の静かな日々だった。

ある日。

たまたま近くを通りかかった看護師は。

その患者がガラにもなく取り乱し。

興奮して、騒いでいるのに気づいた。

震える手で胸元から古い古い家族写真を取り出し。

「彼だ！...彼だ...！」

と。

画面に大写しになっていたトキ・マサト氏を指さして泣き出した。

むろんその貌を知らぬ者など今の世の中に一人としていない。

だが。

成人しても相変わらずずっと垂れ目ぎみの愛らしい童顔とはいえ。

人生の半ばも過ぎて、重鎮、と呼ばれつつある。

それでも若々しい…

彼では、あったが。

家族写真のその姿は…

赤ん坊。だった。

子を抱く妻と、その妻を抱きしめる夫の…

家族、写真。

*

「ボケたのでは？」

「幻覚、いえ、幻想よ！」

医局では慌ただしく意見が交わされたが、元の彼はとても沈着冷静で客観的な性格だったと。

健康だった頃の彼を覚えていた看護師長が、念の為に『仮親ボランティア』組織に連絡を入れた。

遺伝子情報の照合は、一方の当事者関係者からの申告だけで、可能だ。

結果は…

是、だった！

「急いで！」と、関係者は嬉し泣きしながらも、悲鳴をあげた。

残された時間は...

もう、ほとんど無い！

しかしとにかく『彼』はまさにトキの人。であり。

多忙を極める上に、妖しい連絡等は完全シャットアウトだ。

運悪く、往時のコーディネーターだった高原リツコも難民受け入れ業務で多忙を極め連絡がつかず。

『法的保護者』であるパベル社オーナーに至っては、さらに連絡などとりようもない雲の上の存在。

看護師も医師も里親紹介組織も必死で各方面に連絡をとりまわった挙句。

なんとか。

当時いくらカタテルゼ社内では閑職にあって時間の余裕のあった由利士郎氏に電話がつながった。

「...すぐ、連れて来て下さい！」

嘘ではないらしい、と、判断するなり、元・親友は即座に動いた。

*

しばらく顔を合わせる機会のなかった学友から、いきなり『緊急！』告知つきで連絡が入った。

追いつがる取材陣や、サインが欲しいだけの迷惑なグループ子どもを振り払いつつ。

指定された合流場所へ、トキは急いだ。

そこには。かつての親友と。患者に付き添ってきたと思しい、制服の看護師と。

一目で終末期医療を受けている状態...と、わかる。

老人の。

病人が...

「??」

目線でトキは親友に説明を促した。

それより、速く。

「...トアーキ...！」

かすれた声が...

嬉しそうに...

なまえを！

...本当の...

なまえを...！

「...お、...お、父さん...ッ!？」

トキは叫んだ。

叫びながら、駆けだそうとして...

ばたりと。

転んだ。

「...ほら。ほら... トアーキ...

走ったら...

危ないよう...」

震えて立てない彼を。

由利士郎が抱え上げて。

父の手を。

握らせた。

「...お、お父、さん...？ほんとに...？」

「...おおーきく、なった...ねえ... トアーキ...！」

「生きてたんだ...！ お父さん...ッ！」

*

「画面でトキさんのインタビューが流れてたんです。それ観てて突然、興奮して。

録画で確認したら、二歳の頃のお母さまの最後の記憶の話がされて...

そしたら、この写真を出して、『彼だ！』と...」

半信半疑ながら、不幸と不遇の連続だったであろう最終収容船でようやく辿り着いてそのまま終末期医療機関に運ばれた、最後の、避難民の。

せめて末期の喜びになれば...と。

必死で連絡を取ってくれた看護師長は語った。

トキ個人の私財はもはや完全に底をついていたので。

関係者一同が。

慌ててカンパを募って、懐かしい実の父と共に過ごせる最後の日々を。

一日でも長いものにしようと、精一杯の医学的尽力が為された。

「同居人だよ」と。

もはや中年を過ぎるほどになっていた、かつては幼かった息子から紹介された伴侶が。

恰幅のよい同性の人物であったことに、父は少しだけ...

驚いた顔をしたが。

「この性格... だれかに似ている...w」と。

まもなく、敗顔して...

細い声で、笑い転げた。

「ええ？ 誰にさ？」

「お母さんにだよ... おまえの！」

「...ああ...ッ！ そう言えば...ッ？」

「そうだろう？」

「そうかもッ！」

後日、そのエピソードを聴いて。

若き日々に、その同居人氏を。

「なんでっ！ オマエなんだよ...ッ??！」と。

妬心から。

イジメた記憶のある人々は...

いささかの、苦い笑いを覚えた。

*

静かな日々は、けれど長くはなく。

『3 P S』の創立記念式典とて賑やかな行事が続いた日々の終わりに。

老父は。

ひっそりと。

息をひきとった。

…満足そうに。

頬笑んで。

息子の手を。

握って…

「ほら。…お母さんが… 迎えに来たよ…」

そう、呟いて。

*

葬儀はひそやかに。

内うちだけでとり行われた。

その、後かたづけをしながら。

トキは、ユリに呟いた。

「ねえ… もう、ぼく、お役ご免で… いいよね？」

「いいんじゃない？」

「ちょうど通帳も完全にカラになったし！ 働かなくちゃだし！

ぼくもう人気者も有名人も、営業スマイルも… 飽き飽きしたしッ！」

「自分で勝手にやらかしたんでしょ... ボクはあんなに止めたんだからねッ？」

「うん。ごめん。止めてくれて嬉しかった...

でもまあなんとか。健康管理は... してたよ？」

「途中で倒れてたら、うんとアザ笑ってやろうって思ってた...」

「うわはははw」

トキは、笑って。

周囲の者たちにとっても、まじかに直接にみた、最後の笑顔になった。

まもなく。

録画だけで『引退』が発表された。

「公約通り。個人的な貯金も完全にゼロになりましたし〜。

これからは普通の技術者として。

元々の、設計畑の。

仕事に戻りまーすッ！」

そんな軽い挨拶で。てへべろ☆ ってな感じの。

中年にもあるまじき、軽いノリの挨拶だけを、残して。

整形して一般市民にまぎれこんで普通に暮らしているんだ、という説と。

木星移民船に乗って憧れの『恒星間移住船』建設に参加しに行ったんだ。

という説と。

真偽は明らかにされぬまま...

歴史上に残された、彼の記録は途絶えた。

＊

後。

コウイチ・スギタニによる地表殲滅作戦と強制恒星間移住計画が発動された際に。

すでに。

木星軌道上に大量の。

大型移民船が用されていた。

ということだけが、史実である…。

F I N.

(第 2 稿)

(第 2 稿)

(第 2 稿)

(タイトル&構成 第2案) (2020年01月18日)

☆【タイトル】(案) ☆

『トキ・マサト伝』

=====

(! 没!)

↓

(起) 出生の謎

0 母の物語

1 難民孤児

2 英才教育

3 学生時代

4 二次創作

(承) 発明提督

1 初受賞作

2 若年起業

3 特許取得

4

(転)

(結)

=====

(急...流)

・一攫千金

・乾坤一擲

・塞翁が馬

(起) 母の物語

(起) 出生の謎

0 母の物語

一旦帰国して。シングルマザーとして産む道を選んだ。

なぜなら彼女の祖国は、単親（ひとりおや）に優しく。

養育費用は支給されるし、保育施設も無料で使えるし。

育児中でも短時間の仕事がみつけやすいし。

そして、『欠損家庭』への差別や蔑視や攻撃などもなく。

何より治安と経済が安定していたからだ。

そうでもなければ。

誰が好き好んで。

(あくまでも、今のところはまだ内縁の、ではあるが...)

夫であり、最愛の恋人であり半身ですらあるひとを、置いて。

一年だけ。のつもりとはいえ。ひとりで帰国したいなどと...

考えるだろうか？

しかし他国である日本にいたまま。

単親を装って産むには色々な差別と経済的なハードルが高過ぎて。

そして、父親の所在をしつこく追及されたとして。

その彼が。

滞在ビザ無しの。

結果として不法就労中の存在であることを。

知られるわけには…

いかなかったのだ。

彼女自身の心のなかでの名前は、すでにとっくの昔に人妻であり。

『ヴェルドゥエラ・ラーディイー・デ・マーチャンドック・グリュエル=島田』というの
が

『正式な』フルネーム。

のつもり。ではあったが。

あえて『独身時代の旧姓』である『ヴェルドゥィユ・ラーディイー』だけのパスポート
のまま。

日本での研究職には『産休』を申請して。

マタハラすれすれの厭味を言われながらも、なんとか受理されて。

妊娠五ヶ月のおなかを抱えて。

なんとか、帰国した。

そして母国で無料の産院のお世話になって。

無事に生まれて。

おかげで息子は欧州国籍のみを得て。

徴兵制のある日本の戸籍には、編纂されずに済んだ。

昼間は無料の保育施設に子どもを預けて普通職のパートタイムで働き。

むろん短時間労働といえども正規社員と同等の時給を稼いで。

いくらかの貯蓄もできて。

これでまた物価は安いけど治安も悪い、落陽国家である日本に。

あえて戻って、愛する夫と共に、暮らせると...

新千歳空港で。

迎えに来てくれた最愛の夫にしがみついて。

お互いに泣いて泣いて...

笑って。

涙と鼻水まみれのままで、熱い篤い...濃厚な...

キスを交わして...

そしてまた。

共に暮らし始めた。

*

夫『グルージー・マーチャントリック・グリュエール=ロウデアール=島田』は、離れ離れのあいだ。

気が狂うほどに心配で心配で...

淋しかったが。

妻（内縁の）が科して出発した課題、

「名前は日本語で考えてちょうだい！ うんとムズかしいカン字で！

そうしたら私、日本語の書道にチャレンジするわ！ その字がすらすら書けるようになるように！」

という難題に。

うんうんう～ん...??

...と、頭を悩ませているうちに。

「無事、誕生！」の報せが届いて。

まずは一安心！ と、...胸をなでおろした。

送られて来た画像はとてもキュートな...??

(...えッ??)

真っ赤っか～で...!

黄色い粉をふいた。...!?

まるで、ポテトの煮崩れたような...

ものすごい...

モンスターのような...

御面相で...

哭き喚いていて...!!!?

思わず心配になって!

周囲の子どものいる家庭に見せては相談してまわったが...

親たちはけらけらと笑って。

「一ヶ月もすれば、ちゃんと人間に見えるようになるから大丈夫！」と、

保証して、くれた。

矢継ぎ早に、妻と妻の親戚や共通の友人たちから送られてくる画像は。

妻が満足そうな笑顔で順調に授乳できており。

モンスターは日ごとに地球人らしい美男子に成長しつつあると。

絶え間なく知らせてくれていたので。

やっと安心して。

考えに考えて、周り中をまきこんで、大騒ぎして決めた...

名前を。

伝えた。

『瀧人 (ターキシユテ)・マーチャントï ック=ラージィイー・グリユエル=島田』

「日本語式だと『島田 瀧人』(しまだ・たきひと) だよ？

わかる？ 読める？... 書けるように、なれるかな... ??」

添付メールで拡大して送った。

その『瀧』という画像の。

漢字の画数のあまりの多さに！

遠い異国の地で妻は大笑いして。

それから大げさに泣きまねをして、叫んだ。

『なにこれイジメですか〜〜〜ッ？』

『自分で難しい漢字にしろって言ったんじゃないか！』

そんな痴話喧嘩をしているうちに。

息子はすくすくと元気に育ってくれて。

地元の...

空港で。

ようやく！

家族が！

初対面と！

再会と...！

また、揃った...！！！！！！

*

それからの暮らしは順調とは... 言い難かったが。

妻は職場復帰後の厭味の嵐と閑職左遷に耐えねばならなかったし。

日本の公的保育園は働く外人女の高給取りシングルマザーの子どもの受け入れを拒否したし。

様子を診に来た地域の保健師には、危うく実の父親が。

不法就労の脱法難民だと、ばれそうになったり...！

したし。

子どもは順調にぐずるし暴れるし怪我するし病気もするし夜泣きもするし...

色々と大変では、あったが。

それでも爆睡する赤ん坊と添い寝のまま寝落ちする少しやつれた妻の姿を。

すぐ間近に眺めれば。

離れ離れで暮らす日々に比べれば。どれだけ幸せか...と。

安い缶酒を毎週末に一本だけ、と。

自分にささやかすぎる贅沢を許して。

グルージーは幸せをかみしめた。

もはや自分の元の国籍や血縁者がどこの誰なのかも分からなくなってしまった、

複数種族難民間記録欠落混血孤児、と呼ばれる。

生まれながらにして無国籍者の身にしてみれば...

家族。というのは。

ただ、この小さな宝箱のなかの...

広い天蓋のしたに。

三人だけ。

だったので...

*

平穏な日々は。

しかし長くは続かなかった。

天地鳴動して大震災が起こった。

家屋は潰れたが、家族は無事だった。

職場は崩壊したが、命と身体は無傷で済んだ。

...よし！

きっと！ また！

幸せに...！ なってみせるぞ...！！

夫婦は寄り添って赤ん坊を温めて。

臨時の避難所の寒い片隅で、

眠った。

＊

避難所レベルでは。

躊躇なく、受け入れられた。

夫婦ともに日本語はべらべらだったので意思の疎通には不自由がなかったし、

なにより赤ん坊！ を連れているという一点で。

少子高齢化が深刻すぎる状況の、過疎の寒村においては。

歓迎来臨！ というジジババの勢いだったからだ。

避難所に滞在している総人数と、性別や年齢や健康状態やを調べに来た、

役場の人間だけが、いささか困惑した。

名簿に記入しろ、とペンと紙を突き出した瞬間に、夫が真っ青になって冷や汗を書き、突然、

「わ... ワターシ、ニッポンゴ、わっかりませーんっ ...ねっ？」

と。

明らかに日本で生まれ育ったと知れる流ちょうな日本人なまりのニセ外人ぶりで。

叫んで回れ右して、脱兎のごとく逃げ出した...からだ。

「...ワタシハ、欧州人デース。大使館ニ！ 連絡シテクダサーイ！」

その妻と思しい人物も、かわいらしい赤ん坊を、きつく抱きしめたまま。

...いざとなったら...

夫を護って闘う！

敵意を満々とたたえたキツイ眼をして睨んでくる。

「...いや、え〜と。あの...」

役場といっても戸籍担当ではなく、保健所の人間であったので。

そしてこの北の涯の海際の土地では、実際に「よくある話」ではあったので...

海の向こうの大陸を割拠していた、昔日の幾つかの大国では。

相次ぐ人災や天災や戦災やによる、

各国からの大量に流入して来る国際避難民たちと。

深刻な旱魃や森林火災や水害や冷害による不作で。

都市へ『出稼ぎ』に流れ出た、

大量に過ぎる無届けの国内移民たちと。

独裁的な政治に『反抗した』思想犯たちと。

治安が悪化の一途をたどる中で次々と逮捕され裁判の暇すらない、大量の刑法犯罪者たちと。

さらには『劣等人種』と勝手に烙印を捺され『民族浄化』の対象と定められてしまった、

少数民族や、先住民族たちを。

それぞれ、ろくに区分することもなく。

ごった煮のぎゅう詰めにした『収容所』という名の『強制労働所』で...

『過酷な環境下で、死ぬまで働かせる』という。

緩慢して残虐な。『労働死刑場』にて。

まさに。『飼い殺し』にしていた。

そんな場所で。

親の国籍も判らず片隅に生み捨てられる『混血児』たちや。

親に死に分かれて自らの名まえも分からぬ、幼い孤児たち。

名簿に載らないその人数を、攫い出して来ては。

何やかやの目的で『売りさばく』組織や。

あるいは自力で逃げ出して、ボロ船を盗んで。

命からがら、こちら側の島国の海岸に流れついて。

言葉もわからぬままに...

ひたすらに。

怯えて。

ただ、拾われたら、その場所で。

衣食住と、安心?...さえ。

与えられれば。

給料など、

権利や休日など。

要求しもせずに。

無給の無休で。

よく働く。

...そういう、

『激減した若年労働力を補うための』

ナイショの。

働き手。が...

あちこちの。

へき地の牧場や、寒村の、漁港に。

なかば公然と、点在しているのは...

役場も。

黙認してきた...

からだ。

そしてそういう者たち同士のあいだで。

さらに子どもが生まれて。

それがまた大人になり親になる。

そういう、時代になっていた。

日本で生まれて日本のことしか知らない。

日本で働いて、日本で買い物ををしている。

けれど。

日本の戸籍がなく。

世界のどこにも、国籍がない...

そういう、子ども。たちが...

今ではそういう人たちを。

捕まえたり罰したり、『本国』に強制送還したりという。

悪しき習慣は。無くなりつつあってはいたのだが。

それを説明する前に逃げ出した夫と、もはやすでに戦闘態勢の、妻を見て。

小役人は、やれやれとため息をついて、一覧表には自分でこう書き込んだ。

「ことばの通じない外国人旅行者一家」（夫妻+乳幼児一名）と。

それが、この家族が残した、ささやかな。

唯一にして最後の。公的な記録となった。

*

役人が。

へたくそなウィンクをして。

笑顔で手を振って。

（名簿に書きこんだ内容をちらっとだけ見せて）立ち去って行ったので。

夫妻は安堵して、避難所でのサバイバル生活を続けた。

「...とあー..... ッキ！ っとお！」

「え～違うぞ？ おまえの名まえは、タキヒト。っていうんだぞ？」

「とあーきっと！」

「タキ、だってば。」

「とあーき！」

「トアじゃなくて...タ！」

むきになって修正させようとする夫を、妻は笑って止めた。

「どうもまだうまく『た』って言えないみたいなのよねー？」

「トアキじゃないよ〜う！」

「そのうち言えるようになるわよ〜う！」

「トァー...キ...タ! ...ック！」

「それ全然違うから！」

『瀧人（ターキシユテ）・マーチャントック＝ラージィイー・グリユイーエル＝島田』だから！」

「まだ無理よ〜う...（笑）」

そんな、日々だった。

*

記録的な大暴風&豪雨が襲った。

避難所は、山々に囲まれた、山裾の。扇状台地の奥端に建っていた。

とっくの昔に廃校になった、歴史的木造建築の、小学校の、旧校舎だ。

続く震災で倒壊が危ぶまれたので、避難民は校庭にテント村を張ってそこで寝起きしていた。

幸い、雨漏りはさほど酷くはなかったが。

狂風で飛ばされたテントや、怪我人がいくらかは出た。

雨が止んで。

各所の土砂崩れで道路が寸断され。車では救援物資が運べないと、無線で連絡が来た。

壮健を誇る農業や漁業や土木建築業で働いてきた男たちや女たちが。それではと。

それぞれに、使いこんだ背負子やリュックを担いで、山越えの道を歩いて荷を受け取りに行った。

夫グルージーも勇んで出かけて行った。

「待ってろよ、トァーキ！ 美味しいモンもらって帰って来るからなー！」

「んまー！」

それが、最後になった。

*

避難所は、山々に囲まれた、山裾の。

扇状台地の、奥端の。

頑丈な岩盤が削られた、川床の。

すぐ傍らに...

建っていた。

記録的な大豪雨が止んで、翌々日のことだった。

ふと誰かが気づくと、谷筋を流れる小川の流量が。

極端に、減っていた。

「...えッ...上流で、土砂崩れが... あったってじゃないべか...？」

続いて。

濁った泥流が...

ひたひたと...

谷底を...溢れんばかりに！

「山ッ！ 崩れんでねえべかッ?!」

騒ぎが起こるより速く。

どーーーーーん！

...と。

いわくいいがたい、巨大な轟音が。響いた。

「...崩れるッ！」

そんな映像は。

ニュースで何度も視ていた。

*

母は洗濯物を放り出して走った。

走った。奔った！

「...ヤマツナーミ、てんでんこー！」

走りながら、まだ気がついていない人たちに。

それだけ叫んで、伝えたつもりになるのだけが、精一杯。だった。

校庭のはしの自分たちの天戸に駆けこんだ。

ベビーサークルの真ん中で、赤ん坊は元気にひっくり返ってた。

おむつは替えたばかりだ！

とっさにひっつかんだゴミ入れ用の大きなビニール袋に。

子どもを放り込んで。

頭だけ出して、ぐるっと首のところで縛って。

それをしながらとにかく駆けだして。

扇状地からは、横に逃げないと！

脇の山に登らないと...！

しかし。

恐ろしい勢いで。

山がひとつ丸ごと崩れたか。

それともひとつと言わずふたつみっつの山がまとめて崩れ落ちたのか。

そうとしか思えない、大量の土石流が。

すぐ。背後から。

ものすごい高さで...

迫ってきていた！

*

母は走った。

走った。

奔った。

子どもを抱えて...

心臓が、破れるほどに！

(…あそこだ…！ あそこなら…！)

扇状台地の、真ん中に。

一カ所だけ。高く突き出した、岩山と。

元の一本松の、今は枯れて折れた… 枝のついたままの、…高い、切り株がある。

(あそこだ…！)

母は走った。奔った。奔った。

何度も転んで。泥まみれになって。

追いかけてくる泥流に腰まで埋まって。

必死で子どもを高く抱えて。

走れなくなって…

もがいて…

泥の中を、

泳いで…！！

岩山の裾に！

ようやく！

辿り着いた！

泥が胸まで届いた！

すぐに首まで埋まった！

高く！

高く子どもを差し上げた！

届いて！

届いて...！

届いてえエ...ッ！！！！

「お願い...！ お願い...ッ！！」

子どもに着せたビニール袋を。

なんとか。

松の枯れ木の...

その...

枝に...ッ！！！！

「お願いーーーーーいいいい...ッ！」

涙ながらに。

口元まで、泥に埋まりながら...

叫んだ。

「おねがいーーーーーッ！」

その、時。

「... わかった...。」

誰かの声を。

母は。

たしかに、聴いた。

一陣の。

にわかな...突風が。

吹いて。

とっくに折れて枯れて、

固く干乾びていたはずの...

松の、枯れ木の枝が。

ぐいんと。しなった。

赤ん坊の首に結んだビニール袋の

結び目を。

枝が。

ぐいんと。

引っかけて...

上へ。引いた。

泥は、もう、母の。

目を覆うばかりの高さに来ていた...

母は。

そのまま。

流された...

埋もれた...

「元気でね！ トアーキ！

元気でねええええええ.....ッ！！！！」

それが。

赤ん坊が。

覚えていた。

青い...空の。

母の。

最期の...

*

妻を喪った夫である父が。

失われた息子と。

遠く離れた場所で。

再会を、果たすのは...

それから、長い長い...

歳月が。

過ぎた後の。

話になる...

*

号泣の彷徨と。

困窮の流浪の果てに...

一枚だけ。

家族三人の改まった笑顔の…

画像がのこる。

でかい眼で、にぼりと笑っている。

片方の前歯がようやく生えかけたばかりの。

ぼやぼやした褐色の淡い柔らかいクセ髪の毛の。

肌の色も（日本人のなかにいると）やや薄めの赤ん坊と。

大事そうに胸に抱く母は。

渦巻く豊かな黒髪を腰まで長く伸ばして。

少し古風な、民族風の衣装を身につけて。

印欧アフリカ&アジアの複雑に入り組んだ混血のもたらした、

奇跡的なほどに美しく整った、卵型のなめらかな骨格の。

明るい笑顔の。

浅黒い肌に、緑褐色にきらめく理知的な大きな瞳。

その肩に腕をまわして、大事そうに抱く、夫は。

中央アジア独特の、薄い色素の髪と眼に。

蒙古系との混血を示すなめらかな顔立ち。

ユダヤかアラブの血もひくらしい、特徴的な鼻の線。

幸せそうに…

妻の髪に、頬を寄せて。

笑っていた…

懐かしい。

昔の、話だ。

(承) 幼年時代 (1) 名前の謎

一面の荒れた大地に。

ひとりぽつんと。

取り残されて。

その子どもは、

泣きもせずに。

大きな眼をして。

救助者を、きょとんと見上げていたという。

そこは北国の。

荒涼たる。

かつては…

農村地帯で。

幾度も繰り返す襲い掛かる。

大震災と、

津波と。

原形も留めぬまでにひしゃげた、

建造物群の残骸と。

それでも芽吹きかけたまま。

哀れ放射能に侵されてひねこびて病み、

枯れつつあるわずかばかりの農作物の。

そのさなか、つい先日、再び襲い掛かった。

激しい積乱雲による大暴風雨と、山津波と…

土石流で。

地表に取り残されていた最後の人々の、難民キャンプが。

全て。

流されて、

消えた。

泣きながら、生存者を探しにきた者たちが。

唯一、見つけて、連れて帰ってきたのが…

その子どもで、あった。

大急ぎで。

周辺数百メートルの範囲の、浅い地表が搜索されたが。

その子どもの保護者であったろう大人は。

おそらく。

…

子どもだけは、せめて。

きっと…

助かってくれ！ と信じて…

少しばかり尖って突き出た大岩の上に。

子どもだけ。

を、最後のちからで、

かろうじて。

押し上げて…

山津波に。

自身は呑みこまれて、泥中に。

沈んで、果てたのであろうと…

救助者たちは、涙ながらに語った。

激しく襲い掛かる泥流のさなかに巻き込まれて沈んだであろう、人々の数はあまりにも多く。

名簿を改めるためだけにすべて掘り出して、あらためて埋葬しなおすほどの、

余力は。

救助者たちにも、もはやなかった。

後日、その子どもを救い上げてくれていた…大岩のふもと。

枯れた松の木の根方に。

一粒の、どんぐりだけが、供え物として植えられた。

せめてもの、たむけの、追悼の。

母の。

墓碑の代わりに...

*

見知らぬ大人たちに連れられて収容されなおした、

移転先の難民キャンプは、

南の国の。

ことばのなまりが。

それまでいた北の地方とは、

かなり違う、地域であった。

「じぶん名前なんち言うん？」

見知らぬ大人に、聞き慣れぬ言葉で訊かれて。

子どもは、きょとんとしていた。

「名前や...な・ま・え！」

しばらく考えて...

答えた。

「...とあーき、...まー... ちゃん...と。...とあき！ まーちゃん...とっ！」

「...トキ、かいなあ？」

...トキ・マーチャン？ 言うんやな？ マーチャン...ト？ マチャト？ ...マチャヒト君、
かいな...？」

と、

発音したようだ。

探している親族が。

まだ誰か、生存しているかもしれないと。

録画とともに公開された記録には、

...残る。

『トキ』という名字の大人は。

喪われた難民キャンプの。

逸失をまぬがれて遺された、部分的な収容者名簿には、...なかった。

しかしそれは名簿のほうの不備かもしれなかった。

被災に次ぐ被災で。

どこの収容施設も。

満身に、きちんと、収容者の人数や名前を把握できているとは...

とても、言いきれなかった。

大人たちは、しばらく考えて。

子どもの名簿には、

(仮名)『土岐(または多岐か滝?)正人(マサトまたは マサヒト)』という字を充てた。

*

あるいはそれは『轟 正仁』(とどろき・まさひと)と。

はぐれた父親の名前のことを。

呼んだのではなかったか? と、

問い合わせが入った。

それはその父親の雇用主だったという人物からだった。

数ヶ月が経っていた。

子どもは、とりあえずその人物の保護下に入るようになったが。

幼い子どものこととて。

その頃には、元の自分の名前も、…親の記憶も。

すべて、失われていたようであった。

*

少し大きくなった頃に。

その経緯と、命名のいきさつが、子どもに説明された。

聡明な子どもは、ううん…？

と。考えた。

じぶんの名まえは、トドロキよりも、トキがいいかな…？

音が怖くないしね。

赤い鳥の名まえと、おんなじ音。だしね？

…と。

選んだので。

子どもの、自由意志が尊重された。

*

それからさらに。

しばらくして。

子どもが、ひととおりの日本語と、日本式の漢字の読みを。

覚えたところに。

本人から希望があって。

『正人(マサト または マサヒト)』の標記は、『真扉』(まさと)に改められた。

その理由は。

同じ難民キャンプの、同じ学年に。

同じ漢字の『正人』が。

他に、三人も、いたので...

ありふれ過ぎていてツマラナイし、

混同されやすいから。

「もっと！カッコイイのがいいと思って！」

自分で一生懸命に、考えたから。

...と、いうことだった。

こうして。

『土岐 真扉』(トキ・マサト)。(※ 本人希望名称。)

という姓名が。

改めて。

名簿に、刻まれた。

それが、後に。

人類史上に燦然と輝く。

偉業をなしとげた、人物の。

名前の、由来である。

(承) 幼年時代 (2) 育ての親

その呼び出し音が鳴った時。

幸い彼は、ティータイム中だった。

(そうでなければ、無視したところだ！)

「...係(ハイ)？」

その頃の居住地の言語で、とりあえず応えてみたところ、

「お久しぶりね、鋭(えい)！」

日本語で。

...懐かしい...顔が。

すこしだけ、疲れた様子で。

ちょっとだけ、老けこんでもいたけれども。

相変わらずの、笑顔で...

画面に、大写しに現われた。

「やぁ...ひさしぶりだね、リツコ。今の通称は 清鋭峰(ジン・ルイフェン)だよ。どうしたの？」

「そうだったわ。『人類・変』博士よね。変な名前w

香港勢のところに棲み着いてるのよね。元気そうね？

今日はね、『仮親ボランティア』コーディネーターとしてお願いなのよ！」

「...僕に？」

「...忙しい？」

「いや... 忙しいことは忙しいけど...超。...超ッ絶...！」

「無理かなあ？」

じつのところ。

建設まっさい中の、巨大人工宇宙島『3 P S』（スリーピース）の。

今なお、設計図の各所の細部をせっせと詰めつつ。

大枠の施工管理実務の大半を統括しているのが、

...彼だ。

それはもちろん相手も承知した上での...

あえての、お願いだ...？

「...う～ん...『F I F S』から日系対応コーディネーターにって。

元パベルの長野さんを貸してもらってからは、人事は押しつっちゃったんで、だいぶラクにはなったけど...

なぜ僕に？」

「それがね！ 五歳児クンなんだけど～」

「ええ？」

「質問魔、なんですって！」

それも院卒や博士号持ちの人でも答えに窮するくらい、ハードに専門的でコアに理系な！」

「...ははあ...」

「鋭も子どもの頃そんなだったって言ってたでしょ？ いわゆる理数系『天才児』枠よね？」

「そんな気はするねえ」

「でも食べ物はぼろぼろこぼすとか。服のボタンがまだ自分で留められないとか。目を離すとすぐに迷子になっちゃうとか。好奇心で何か『実験』しようとして、あわや大惨事！ 寸前とか〜？

...やらかすことは、やっぱりまだ五歳児。なんですって。

...鋭。

ちびっこの世話も教育係も。...得意よね...？」

かつて世話されたちびっこ当人からの御評価なんだから、そいつは間違いない。

「...なるほど？」

がぜん好奇心は涌いた。

「とりあえず、連れて来させてみてよ。会ってから、お互いの相性みて決めるってことで...」

「ありがとう！ 『仮ボラ』の誰かが連れて行けると思うから、空いてる時間を教えて！」

いくつになっても元気な少女のままのような、旧知の知り合いは。

地球の全生命が絶滅寸前！ という大激変のさなかとも思えぬ、昔のままの...

笑顔で。

用件だけさくさく語ると、マイペースに。

さっさと映話を切った。

*

「...名前は？」

でっかい眼をして。

腰より低いくらいの位置から。

首をぐいっと曲げて。

必死に見上げてくる。

子どもの一生懸命さに苦笑しながら、彼は。

かがみこんで視線を合わせてから、尋ねた。

「...今の名前は... 土岐 真扉（とき・まさと）...」

「...そうなんだ？」

「前の名前は... たぶん違ってて...」

マーチャント・瀧（たき）。ナントカ。...だった。...たぶん...」

「...いつ頃の話？」

「たぶん二歳より前... 救助。される前...」

「覚えてるんだ？」

「なんとなく... じゃ、なくて。」

後から、思い出した。というか...」

「名前を元に戻すつもりはないの？」

「もう... 今ので。...慣れちゃったから...」

「そうかぁ」

「みんなトキって呼ぶし。」

「うんわかった。じゃ、それで行こうか。...トキだね？」

「うん。...あ、...はい。」

「ぼくはきみと同じで、一歳になる前くらいから、ほとんどの体験を、かなり鮮明に記憶してる体質。」

「...そうなんだって、聞いた...」

「誰に？」

「リツコさん...」

「リツコと会ったんだ？」

「直接は会ってないよ。映話で話しただけ」

「...ぼくと話す時は、『子どものふり』しなくてもいいって、習った？」

「それは習わなかった。あなたを視て、いまボクがそう判断しました」

「じゃ、ぼくら、うまくやっていけそうだね？」

「...よろしく、お願いします...」

「ぼくの『今の名前』は、ジン・ルイフェン。昔の仲間は、エイとか、リールとか、色々で呼ぶよ。

日系の政治的亡命人だけど、あちこち転々としてて。

今はおもに香港からの亡命勢と一緒に、宇宙と地上を行ったり来たりして仕事してる。

人工宇宙島『3 P S』の設計施工担当総責任者。

よろしく。』

こうしてトキ・マサトは。

巨大宇宙港の、建造現場のまっただなか。

天才科学者と天才技師たちと天才宇宙飛行士と。

宇宙トップクラスの建築技能士や、事故即応隊員たちや、救急医療師たちが。

行き交う中で。

おとなに囲まれて...

各分野の専門家たちが暇ひまに面白がって教える、超のつく...

専門知識を。

シャワーのように浴びて、育った。

(承) 幼年時代 (3) 生育環境

通称『3 P S』(スリーピース)と呼ばれる巨大人工宇宙島は。

その名が示すとおり、大きく三つの部分に分かれる。

第一に建設されたのが『最初のP』と呼ばれる、『PORT』(宇宙港)の部分。

第二に設置されたのが『支えるP』と呼ばれる、『POWER』(駆動部&工場)部分。

第三に増築されたのが『第三にして真のP』の、『PEAPLE』(居住区)の部分。

だった。

正式名称は(英語圏では)

『The PORT of The PEAPLE's POWER』。

設計施工は『星雲基金』(ネビュラ・ファンド)推進機関の、実質的な首脳陣各位が請け負い。

資金源である施主は...『F I F S』(フィフス)と名乗る『人類救済委員会』だ。

つまり、全人類の、希望の人工星...だ。

トキは、正式に『仮親』となってくれたジン・ルイフェンや、仕事仲間たちに連れられて。

最初は『3 P S』建設委員会の本拠地だった地上の南米基地で暮らし。

次には建築中の『PORT』の作業要員が寝泊まりする、

仮設の隣接施設『POP-UP』の。

有重力エリアで育った。

当然だが、他にはほとんど同年代の子どもなどいなかった。

ひたすら、大人たちの緊迫した日々の船外作業や。

追加で至急の設計変更における怒号と混乱のディスカッションや。

突発事故対応や遺体や宇宙葬の悲惨さ...の。

なまの現場を観て。肌で感じて。

学んで、育った。

大きな事故や、悲劇的な事件なども多かったが。

建築の手が停まることは、一刻だとしてなかった。

早く...

早く！

一日でも、一秒でも

早く...

地上の、人類と、全生命の... (せめて種子や遺伝子だけでも!) を...

保護したい！

働く人々は、それだけを願い、集まった、

... ボランティアたち。

だった。

仲違いもトラブルも多かったが。

一触即発のような状況になった時でも、

…ふと。

地上の…

荒れ果てた、姿を、眺めおろすと…

おとなたちは一気に冷静になり。

「ここで言い争ってる場合じゃないな…！」と。

意見のすりあわせポイントを必死で、探して。

譲歩しあい、

止揚させ…

話し合いで。

解決して。

建築を、進めた。

それを、トキは、まじかに…

観て、育った。

*

トキがそろそろ十歳になろうかという頃。

『3 P S』の『最後にして最大の P』が。

ようやく、完成した。

以後の運営主体である『F I F S』への引き渡し式典と。

盛大な、打ち上げパーティーと。

即座に。

めまぐるしく送り込まれ始めた...

大勢の、避難民の...

最初期の、『宇宙移民』の。

一般人の。

ひとびと。

トキはその人たちとコミュニケーションをとる方法が、最初よく分からなかった。

今まで周囲にいた、いずれ劣らぬ『天才肌』の大人たちとは...

なにもかもが、違っている、ようだったので。

「...残念だけど、そろそろお別れの、時期かな...？」

続く『月基地建設』計画へ向けて。

慌ただしく移転の仕度を始めたジンに。

ある日、言われた。

「きみはちょっと急いでオトナになり過ぎた。ここらでいっぺん、時間を巻き戻して。

遊ぶとか、さぼるとか、昼寝をするとか。トモダチをつくるとか...

そういうのを、学んでみる、番だよ？」

「...ジンもそうだったの？」

「...え？」

「ジンは？ オトナになる前に... コドモ、やったの？」

「... う～ん...」

五年間の育ての親は。

実年齢にはまったく見合わない若々しい外見の、

若々しい仕種で。

大仰に悩んでみせた。

「やったと言えば... やったかなあ...」

友達、は、出来たねえ...

失恋も、したりとか...」

「そうなんだ？」

「うん。まあ... 今のぼくの基盤になる経験というか... 青春というか？ は... した。ねえ...」

「ふ～ん...」

「大事な、思い出だよ。きみにも、そういうのを、体験しておいてほしいなあ？」

「そうなんだ...」

「とりあえず、新設される『3 P S』の『俊秀英才学院』内に『複数学年スキップ級』（天才児クラス）が出来るから。

きみさえよければ、すぐにも編入手続きを、するけど？」

とりあえず、数年でもいいから。

同年代の人や、一般的な知能指数の人たちとの。

交際のしかたや、『一般常識』を...、学んで。

それで、もし僻地での、天才仲間まみれの。

閉鎖的な環境の中での暮らしのほうが、向いていると思ったら。

就職は、月面開拓や辺境開発に、...したらいい。

そう、言われて。

しばらくの、お別れの、つもりで。

笑って。

月面基地建設のための仮設宿泊施設に向かう、ジン達、育ての親たちを、

見送って...

以後、直接に会う機会は。

ついに、なかった。

(転) 学生時代 (1) 同人活動

学生生活、は...

面白かった！

子どもの頃には。

難民キャンプでは...

周りには、いなかった。

自分と同じくらい、頭の回転が速くて...

理解力も好奇心も、同じくらいの、

...仲間！

『天才児クラス』の学級仲間は...

元々の学年や実年齢や。

出身地や言語や、宗教の有無や宗派や、生活習慣や... は、

すべてが、異なっていて！

それだけでも面白かったが。

その『発見する違い』の、

『着眼点の違い』や。

『それに対応する態度』の選び方や

『分析と論評』などなど... が！

『違い』や『個性』が『あること』自体が。

面白くて。

しばらくの間、トキは眼をきらきらさせて。

過剰に... 精神的に過労になるほどに...

『人間関係』というものに、ぐんぐん、のめりこんでいた。

まあ具体的には。

学級の『一般常識』授業なんかは、軽く放り出してしまっ。

みんなで図書館の一隅により集まって。

珍しい事象の、珍しい解析結果について、ディスカッションしたり。

一般人エリアの飲食店に繰り出して。

価格設定と原価と企業の収益率とを考察して酷評し冷笑しながら。

文化と人類の食欲と性的恋愛的共食行動の心理学的行動関係について、考察したり。

しながら...

とにかく、食べたり！

喋ったり！

笑ったり！

食べ歩いたり！

歌ったり！

踊ったり！

ナンパ！...してみたり...！

それまであまり触れる機会のなかった...

多ジャンルの音楽を。

勧められるままに次々と聴いたり。

生の演劇や演奏を！ 舞台上で観たり！

『芸能人』と。じかに喋って。質問したり！ されたり！

...そんな。刺激的な、日々だ。

*

「...そこまでハマるとは思わなかったなあ...

今まで結構やっぱり、寂しかったわけだねえ... ごめんね？」

映話の画面の向うで。

育ての親が苦笑して謝罪するのを。

トキは大慌てで、全力で否定した。

「本物の一流の大人のひとたちから、現場で色々習えたのは、本当に愉しかったよ！

でもそれとこれとは別腹！」

「別腹かw」

そんな風にして、数年があっという間に過ぎた。

*

もうひとつ、この時期に。

トキがハマったもの。といえば。

...そう。

皆さんとっくにご存知の...

二次創作・同人作家活動、だ。

「実学的にはありえない！ 全然まったく『科学的』じゃない！ 『SF』& I F設定」だの、

「誰がそんな無茶な技術を考え出したんだ！ むしろFTじゃないのか！」と。

突っ込みたくなる...

娯乐的、冒険的、

ちょっとエロかったりもする...

エンタメ作品群の。

キャラクター造形が...

面白い！

当初。

オリジナル作品を。

いくつか書こうと...試みてみて。

トキは自分には「ゼロからの完全なる創作」（巨匠トルキンが語る『準創造』）

特に、『人物像（キャラクター）を、無の闇の中から産み出す』という...才能は。

残念ながら、宿っていないことを、...悟った。

人生、初めての挫折。

...だったと、後年、彼自身が自伝で語っているが...

次いで彼は。

『大好きな他人作品のキャラクターを使って、』

『オリジナルな I F 展開を仮定し、独自案で演繹する』という...

いわゆる『二次創作』作業に萌えた。

この方面には、いささかの才気を見せて。

『騎士世 彼方』（きしよ・かなた）の筆名で発表された某 S F 風味の架空歴史大作の。

I F 設定な作品群は。

元ネタ小説の新旧ファンたちから、大きな支持を得る。

『天才・中学生？ 作家、現る！』という見出しが。

彼の存在が世に知られた、最初の雑誌記事となった。

*

そして再びトキは、『はるかに年上』の。

『世に一流と呼ばれる』おとなたち、と。

そして。

それまでとは違って...

幅広く、様々なジャンルの...

第一線で活躍する、『文化人』や『芸能人』や『芸術家』。

また、『資産家』『企業家』とも呼ばれる、文化活動支援者の、大人たちと...

交流を、持つようになった。

(転) 学生時代 (2) 同居家族

この時期の、忘れてはならない、新しい出来事として。

「家族!」と、トキが呼んだ。

二匹との、出会いがある。

宇宙都市『3 P S』では、一般人の受け入れ開始と同時並行して、大量の動物たちをも運び入れていた。

野生生物たちは、「可能な限り、生態系まるごと」を目標として『自然環場』に収められたが。

長い歴史のなかを人類と共に暮らしてきた、いわゆる『伴侶動物』『使役動物』たちのうち。

元の同居人家族とは、死別なのかか生別なのかで、はぐれて保護された、比較的小型の動物たちは。

一時保護施設で保菌検査や健康状態のチェックを経て。

移住生活もそろそろ落ち着きはじめた、新規移住者たちを相手に。

出会いの場たる『もふもふ合コン』(いわゆる譲渡会)が、あちこちで次々に開かれた。

むろんこの会は、人と伴侶動物たちを引き合わせるだけでなく。

同じ動物を愛好する人間同士の出会いとコミュニケーションを醸成するための場。

でも、あったのである…。

(有名なエピソードとしては。

一匹の愛らしい猫の飼い主たらんとして、その『猫様』の寵を競いあった二人が。

結局、熟年男女で同居して、猫様を『お子様』としてお迎えする…という結論に至った。

などなどの。ほほえましいものが数々遺されている。)

トキがこのころ間借りしていた『天才児学生寮』(通称《変人寮》)は、もちろん動物同居可だった。

トキは幼い頃にほとんど小動物と触れあった経験がなく。

始めは憧れ半分の、おっかなびっくりで『もふもふ合コン見学』に、出かけていたのだが…。

ある時。

一匹の…犬が。

成犬だった。老犬というほどではなかった。

落ち着いた風情の…

何かを諦めたかのような…達観した、眼をした…

静かなたたずまいの。

猟犬の血を引くのであろう。

賢そうな…

犬だった。

トキは一目惚れした。

ぜひとも家族になって！

というよりもむしろ『師！』として仰いで、教えを乞いたいような。

そんな、気分になった。

その頃には『もふもふ合コン』の『常連見学者』と呼ばれていたくらい。

足しげく通うだけで、なかなか相手の決まらなかった彼の。

初めての、一目惚れ！

...に。

仲介スタッフたちは大喜びで。

監視器用の軽い首輪と柔軟なロープだけ付けて。

すぐに、トキに彼を渡した。

トキは大喜びで、彼を寮に連れ帰ろうとした。

彼は...

抵抗した。

ガンとして地面に貼り着き、動こうとしない彼に。

トキは涙目になって...

目線を合わせて...

地面に這いつくばって...

尋ねた。

「え〜と... ぼくのこと... 嫌い...??」

犬の返答はその否定であった。

…と、その頃はかなり動物たちのボディランゲージを判読できるようになっていた、トキは後に書く。

『着いて来い』と、態度で。

あきらかに。

命令口調で。言われたと…

そして。

犬は堂々と。

迷わず歩いて行った。

そこは隣接する『猫のもふもふ合コン会場』だった。

「…あっ！？ だめよ！ 犬さんは！ こっちに入っちゃ…！！」

スタッフが慌てて制止した。

犬は、びたりと、停まった。

「え？ す、すみません… ええと… なに？ なに？」

おろおろするトキを。

ちらりと、見上げて。

犬は。

…吠えた。

「ワン！ ワン！ ワン！」

正確に、三度。短く。

「...うにゃう～ん...！うにゃにゃ！うなな！うにゃにゃにゃにゃ～...ッ！！！」

激しい、返答の音がした。

はるか...

彼から。

「え...ッ?! ムクちゃんが...? 喋った！」

「ど、どうしたの、ムクちゃんッ？」

「だめよ！怪我するわよ！そんなにひっかいたら、爪がッ！」

「ワン！ワン！ワン！」

「...うにゃう～ん...！うにゃう～ん！うにゃにゃにゃにゃう～ん...ッ！！！」

トキは慌てて反対側の出口に廻って。

犬と一緒に猫エリアの外側から首だけ突っ込んで。

「その猫を！」と、叫んだ。

ほどなくして、事情を了解したスタッフたちが、猫をキャリーに入れて、ダッシュで運んできてくれた。

「...ウォ～ン...！！！！！」

「んにゃにゃにゃ！んにゃにゃにゃにゃ！んにゃにゃにゃにゃ～ッ！」

種族を超えて。

彼らが最愛の『家族』同士の、再会を果たした。

のであることは...

誰の眼にも、明らかだった。

トキも一緒にもらい泣きした。

居合わせた、すべての人々が...

笑って...

泣いた。

後に聞いたところによると。

「無口のムクちゃん」

「ムクレのムクちゃん」と、スタッフから呼ばれていた...

彼女は。

美しい外見と、血統書付き！（遺伝子検査で判った）という有利さにも関わらず。

どんな人間が「あなたと同居したい！」とトライしても...

頑として。拒み続け...

受け入れなかった。そうだ。

『猫もふ会』と『犬もふ会』は原則それぞれ別の場所で別のサイクルで開かれるから。

その日、その時、その場所で。

二種同時の『もふ会』が開かれて。

とはいえ、おもに猫サイドの安心感情をおもんばかって、はるか彼方...

少なくとも、百メートルは離れていた。のだが。

あいかわらず、頑として人間を無視して一言も鳴かなかった、猫の。

『今日いまそこに、彼女がいる！』

ということを...

犬とはいえ、よく嗅ぎ分けた、ものだ...

と、トキは後年たびたび語った。

そして丁度、その時。

やはり「飼い主を選んで？」拒否し続けていた...彼を。

トキが... 外に連れ出して...

そして。

「これはもう、運命だよな?!」

...と。

家族三匹（人間である自分も入れて、トキは家族を『匹』で数えた）揃った！

...と。

トキの動物愛好者たる一面を語るエピソードとして。

ファンのすべてには、広く知られ尽した話では、ある。

*

犬は英国系の猟犬血統複数のMIXで、名前はさんざんトキが悩んだ挙句、

試しに『アレックス!』と「呼んでみたら、返事をしたから。」と、それで決まった。

猫はなんと呼んでも返事はしなかった。何かがお気に召さないらしかった。

しばらくは『お姫様!』と呼んで同居していたが...

一時期の、トキにとって最初の人間の、性的接触行動を伴う異性の友人...いわゆる『初彼女』...が。

「アレックスの相方なら、アレクサンドラでしょ！」

と断言したので。

「サンドラ」または「サンダー（雷）姫様」が...

彼女の、愛称になった。

銀白の長いもっふもふの毛並みを誇る...

たいそう、誇り高い姫様であったと...

直接に知るひとびとは、語る。

(転) 学生時代 (3) 学祭参加

『華麗なる。

リズムカルな。

心浮きたつような...

高齢者は、懐かしくて！

思わず、踊り出すような...

賑やかなメロディラインが。

構内に響き渡った。

同時に。

数十人が。

走りだした...

《下駄》で。』

当時の学内誌はこう語る。

それはスキップ数回を重ねて大学院の最終過程に至り卒業を控えた弱冠十五歳のトキが。

それまでは他者の企画の手伝いや、所属するゼミの一員としての参加ばかりだった学祭に。

初めて。

自分自身で企画立案・設計作成した『発明品』を引っ提げて。

その『商品』の『発表の場』として学祭を利用した...

記念すべき、日であった。

デモンストレーションは学園内の複数個所で、『同時多発ゲリラ演武』的に行なわれた。

(実際には、周到に計算され用意され、きちんと申請し許可された、『連動イベント』だったのだが...)

ある廊下では。

突如として天井から人が降った。

ニンジャの装束をしていた。

通りすがりの女性が悲鳴をあげた。

と見せて。

突如として一般客風の衣装を脱ぎ捨てて...『変身!』した...!?

「きさま奇襲とは卑怯なり!」

「勝ったものの勝ちよ!」

...は?

なんだなんだ...と、本当に通りすがっただけの一般客や学生たちは、眼を点にした。

短い、大立ち回り。

剣戟の効果音と、繰り出される美女の生脚まわし蹴りッ!

...おおッ!

と歓声と注目が集まる。

と。

「...くッ！ 逃げるが勝ちか！」

「きさまどこまで卑怯なんだッ！」

逃げ出す奇襲忍者と、追いつがる『傾奇装束』の美女剣士。

...下駄。と見えていた二人の足元が。

突如として、変化した。

カチッという軽快な音とともに...

高速駆動のインラインローラースケートに、

...化けた？ ...のである...！

なめらかに高速で移動しながらの大立ち回りは、あっという間に遠ざかり。

次には、中庭で騒ぎが展開された。

複数の...時代めかしたキャラクター的な衣装の...

剣士だの野盗だの侍だの、忍者だのクノイチだの、妖術使いだの？ 風の連中が...

音も高く『下駄』踏み鳴らして現われ...

歌舞伎風に、大見えを切り...

一瞬で。

『下駄』が！

色鮮やかな...

ちょっと変わった形の...インライン・ローラースケートに！

変身して... 高速移動で...

闘いながら...

さまざまな『ローラー技』を披露し！

寸劇？ の終わりと同時に。

ぼーぜん... としている観客の前で。

びたり。と。

停まると同時に...

また、『下駄』に戻る...

総員、観客に礼をして、賑やかに『下駄』を踏み鳴らして...

退場。

そして空中や壁に。

簡潔明瞭にして購買意欲をそそる！

商品説明と。

次の演武の時間と場所が示されて...

その場は終わる。

あまりの格好良さに！

学内は、騒然とした。

「次どこ？ 次！」と。

場所を求めて移動する人群れのあまりの多さと。

興奮のあまり、非常識にして無作法なほどの、急行ぐあい。

自分たちの展示や興業イベントが邪魔をされたと、複数の苦情さえ...来た。

商品名は、『下駄 無礼駑』（GET_A_BLADE!）

トキが主導でプロの靴メーカー担当者と、協同研究の末。

最初から『商品化』目的として開発された、最初の『発明品』である。

最初は普通の『洋靴』の下に、日本の伝統的な『下駄』の二枚歯がによきっと生えている...

だけの履物のように、見える。

それはそれなりに新規で面白いし、歩いてみると車輪の収納スペースを兼ねているバネ状構造の反発力のおかげで、あんがい履き心地は良いし、速足で歩ける。

そして。

音声登録して特定の『呪文』を唱えるか。

両足を揃えて横にガンッと打ち付ける動作で、スイッチを押すと。

横向きに二枚並んだ『下駄歯』と見せかけた部分が。

縦に一直線の『インライン・ローラー』に変化する。

無事に間に合ったら、どちらかのつま先でカカトを蹴るか。

『おうちが一番いい!』というデフォルト呪文を唱えてカカトを三回鳴らすと。

ちょっと背が高くなるだけの『下駄』に戻して...

普通に？

歩ける。

広大な大学構内の。

次の講義に遅れそうで必死の駆け足移動！ という手合いに。

「一足いかがですか〜？」というのが、売りだ。

むろん、通勤通学や日頃のジョギング代わりに。

利用のしかたは色々提案できた。

(さらには。横向き二枚歯のままローラーにして、『横に滑る！』という裏技まで、ある！)

値段も手ごろだ。

お洒落なデザインを取り揃えて、サイズ展開も色々和多めに用意していたので。

初期製作分1,000足は、ほぼ一瞬で！

売り切れた。

追加に次ぐ追加生産で。

製造委託先のメーカーは、悲鳴を上げつつ。

半年で売り上げと社員数を。

数倍に増やした。

*

ただし。

その後一年を待たずして、大学当局と、行政機関によって正式に。

『公道および一般道での使用禁止！』通達が、出された。

演武のお手本のプロのスケーターやらスタントマンやらの、人々が。

あまりに華麗！ かつ、滑らかで、易々と...動き回っていたので！

いきなり初心者が真似をしようとして、事故や怪我人が...

相次いだ、ためである…。

(トキらは呼び出されて警察署で説教を喰らった。)

その後は『スポーツ用品』として。

一定の初心者安全教習を受けた上で。

専用の競技場または認定遊技場でだけ、使える。

危険商品ということになったが。

奔りまわる爽快さと、

演武の寸劇仕立ての脚本の数々の…

面白さ。

チーム対抗の勝ち抜きゲーム試合が企画されるなどして…

根強い人気を誇る。

*

これが。

後に『トキのデビュー戦!』と呼ばれた、『剣戟劇』の。

一部始終である。

(結) 黄金時代 (1) 特許取得

そこからは破竹の勢이었다。

(結) 黄金時代 (2) 一攫千金

*

「税金対策です」

しれっとした顔をして、彼は、そう言った。

(結) 黄金時代 (3) 乾坤一擲

『第二次ネビュラ作戦』...と、人々は歓喜してそう呼んだ。

(末) 父の物語

公式の「生育保護者」であるパペル社の社長と、里親仮親ボランティア・コーディネーターの高原リツコが、連れだってやって来た。

公式のアポイントだ。

普通の用件では、ない。

(ぶっつけ草稿 & やっつけ構成)

(ぶっつけ草稿&やっつけ構成)

(ぶっつけ草稿 & やっつけ構成)

(構成) (案) (2020年01月11日 22:22~)

☆【タイトル】(案)☆

『土岐真扉の物語』

『トキ・マサトの物語』

『Masato TOKIの物語』

(The History of Masato TOKI)

=====

(序...章)

・出生の謎

・生育環境

・学生時代

(破...竹)

・同人活動

・若年起業

・特許取得

(急...流)

・一攫千金

・ 乾坤一擲

・ 塞翁が馬

(序...章) (出生の謎)

(1)

一面の荒野に。

ひとりぼつんと。

取り残されて。

その子どもは、泣きもせずに。

大きな眼をして。

救助者を、きょとんと見上げていたという。

そこは北国の。

荒涼たる、かつての農村地帯で。

幾度も繰り返す襲い掛かる。

大震災と、津波と。

原形も留めぬまでにひしゃげた建造物群の残骸と、

それでも芽吹きかけたまま。

衰れ放射能に侵されてひねこびて病み、

枯れつつあるわずかばかりの農作物の。

そのさなか、つい先日、再び襲い掛かった。

激しい積乱雲による大暴風雨と山津波と…

土石流で。

地表に取り残されていた最後の人々の、難民キャンプが、

全て。

流されて、消えた。

泣きながら、生存者を探しにきた者たちが。

唯一、見つけて、連れて帰ってきたのが…

その子どもで、あった。

大急ぎで周辺数百メートルの範囲の浅い地表が搜索されたが。

その子どもの保護者であったろう大人は。

おそらく。

子どもだけは、きっと助かってくれ！ と信じて…

少しばかり尖って突き出た大岩の上に。

子どもだけ。

を、最後のちからで、かろうじて。

押し上げて…

山津波に。

自身は呑みこまれて、泥中に。

沈んで、果てたのであろうと…

救助者たちは、涙ながらに語った。

泥流のなかに沈んだであろう人々の数はあまりにも多く。

掘り出して、あらためて埋葬しなすほどの余力は。

難民救助者たちにも、もはやなかった。

後日その子どもを救い上げてくれていた大岩のふもとに。

一粒のどんぐりだけが植えられた。

せめてもの、たむけの、墓碑の代わりに...

(2)

改めて収容されなおした移転先の難民キャンプは、南の国の。

ことばのなまりが北の国とは。

かなり違う、地域であった。

「じぶん名前なんち言うん？」

見知らぬ大人に、聞き慣れぬ言葉で訊かれて。

子どもは、きょとんとしていた。

「名前や。な・ま・え！」

しばらく考えて...

答えた。

「...と一き、...まー... ちゃん...と。...と！」

と、

発音したようだ。

探している親族が。

まだ誰か生存しているかもしれないと。

録画とともに公開された記録には、残る。

トキ、という姓の大人は。

喪われた難民キャンプの収容者名簿には、なかった。

しかしそれは名簿のほうの不備であったかもしれなかった。

被災に次ぐ被災で。

どこの収容施設も。

満足に、きちんと、収容者の人数や名前を把握できているとは...

とても、言いきれなかった。

大人たちはしばらく考えて。

子どもの名簿には、

(仮名)『土岐 正人』(トキ・マサト)という漢字を充てた。

(3)

あるいはそれは『轟 正仁』(とどろき・まさひと)と。

はぐれた父親の名前を。

呼んだのではなかったか? と、

問い合わせが入った。

それはその父親の雇用主だという人物からだった。

数ヶ月が経っていた。

子どもはとりあえずその人物の保護下に入るようになったが。

幼い子どものこととて。

その頃には、元の自分の名前も、親の記憶も。

すべて、失われていたようであった。

(4)

少し大きくなった頃に。

その経緯と、命名のいきさつが、子どもに説明された。

聡明な子どもは、ううん...と。考えた。

じぶんの名まえは、トドロキよりも、トキがいいかな。

音が怖くないしね。

かっこいい赤い鳥の名まえと、おんなじ音だしね？

...と。

子どもの、自由意志が尊重された。

それからさらに。

しばらくして。

子どもが、ひとつおりの漢字を覚えたころに。

本人からの希望があって。

『正人』の漢字は『真扉』に改められた。

その理由は。

同じ学年に、同じ漢字の『正人』が。

他に三人も、いたので。

ありふれ過ぎていてツマラナイし、

混同されやすいから。

と、いうことだった。

こうして。

『土岐 真扉』（トキ・マサト）。

という名前が。

名簿に、刻まれた。

それが後に。

人類史上に燦然と輝く。

偉業をなしとげた、人物の。

名前の、由来である。

(序...章) (仮親ボラ)

(1)

その呼び出し音が鳴った時、幸い彼は、ティータイム中だった。

(そうでなければ、無視したところだ！)

「...係（ハイ）？」

そのころ使い慣れていた地域言語でとりあえず応えてみたところ、

「お久しぶりね、鋭（えい）！」

...懐かしい...顔が。

すこしだけ、疲れた様子で。

ちょっとだけ、老けこんでもいたけれども。

相変わらずの、笑顔で...

画面に、大写しに現われた。

「やぁ...ひさしぶりだね、リツコ。今の通称は 清鋭峰（ジン・ルイフェン）だよ。どうしたの？」

「そうだったわ。『人類・変』博士よね。変な名前w

香港勢のところに棲み着いてるのよね。元気そうね？

今日はね、『仮親ボランティア』コーディネーターとしてのお願いなのよ！」

「...僕に？」

「...忙しい？」

「いや... 忙しいことは忙しいけど...超。...超ッ絶...！」

「無理かなあ？」

じつのところ建設まっさい中の巨大人工宇宙島『3 P S』（スリーピース）の。

今なお設計図の各所の細部を詰めつつ。

大枠の施工管理実務の大半を統括しているのが、...彼だ。

それはもちろん相手も承知した上での...

あえての、お願いだ...？

「...う～ん...『F I F S』から日系対応専任のコーディネーターになって、パペルの長野さんを貸してもらってからは、だいぶラクにはなったけど...

なぜ僕に？」

「それがね！ 五歳児クンなんだけど～」

「ええ？」

「質問魔、なんですって！

それも院卒や博士号持ちの人でも答えに窮するくらい、ハードに専門的でコアに理系な！」

「...ははあ...」

「鋭も子どもの頃そんなだったって言ってたでしょ？ いわゆる理数系『天才児』枠よね？」

「そんな気はするねえ」

「でも食べ物ぼろぼろこぼすとか、服のボタンがまだ自分で留められないとか、目を離すとすぐに迷子になっちゃうとか。好奇心で何か『実験』しようとして、あわや大惨事！寸前とか～？

...やらかすことは、やっぱり五歳児。なんですって。

...鋭、ちびっこの世話も教育係も。...得意よね...？」

「...なるほど？」

がぜん好奇心は涌いた。

「とりあえず、連れて来させてよ。会ってみてから、お互いの相性みて決めるってことで...」

「ありがとう！『仮ボラ』の誰かが連れて行けると思うから、空いてる時間を教えて！」

いくつになっても元気な少女のままのような、旧知の知り合いは。

地球の全生命が絶滅寸前！という大激変のさなかとも思えぬ、昔のままの...

笑顔で。

用件だけさくさく語ると、マイペースに。

さっさと映話を切った。

(2)

「...名前は？」

でっかい眼をして。

膝より低いぐらいの位置から、首をぐいっと曲げて。

必死に見上げてくる。

子どもの一生懸命さに苦笑しながら、彼は。

かがみこんで視線を合わせてから、尋ねた。

「...今の名前は... 土岐 真扉（とき・まさと）...」

「...そうなんだ？」

「前の名前は... たぶん違ってて...」

マーチャント・瀧（たき）。...だった。...たぶん...」

「...いつ頃の話？」

「たぶん二歳より前... 救助。される前...」

「覚えてるんだ？」

「なんとなく... じゃなくて、後から、思い出した。というか...」

「名前を元に戻すつもりはないの？」

「もう... 今ので。...慣れちゃったから...」

「そうかぁ」

「みんなトキって呼ぶし。」

「うんわかった。じゃ、それで行こうか。...トキだね？」

「うん。...あ、...はい。」

「ぼくは一歳になる前くらいの頃から、ほとんどの体験を、かなり鮮明に記憶してる体質」

「...そうなんだって、聞いた...」

「誰に？」

「リッコさん...」

「リッコと会ったんだ？」

「直接は会ってないよ。映話で話しただけ」

「...ぼくと話す時は、『子どものふり』しなくてもいいって、習った？」

「それは習わなかった。あなたを視て、いまボクがそう判断しました」

「じゃ、ぼくら、うまくやっっていけそうだね？」

「...よろしく、お願いします...」

「ぼくの『今の名前』は、ジン・ルイフェン。昔の仲間は、エイとか、リールとか、色々で呼ぶよ。

日系亡命人だけど、あちこち転々として、今は香港からの亡命勢と一緒に宇宙と地上と行ったり来たりして仕事してる。

人工宇宙島『3 P S』の設計施工担当責任者。よろしく。』

こうしてトキ・マサトは。

巨大宇宙港の建設現場のまっただなか。

天才博士と天才技師と、宇宙トップクラスの建築技能士や事故即応隊員や救急医療師たちが。

行き交う中で...

おとなにまみれて...

各分野の専門家たちが暇ひまに面白がって教える、超のつく... 専門知識を。

シャワーのように浴びて、育った。

(序...章) (生育環境)

(1)

通称『3 P S』(スリーピース)と呼ばれる巨大人工宇宙島は、その名が示すとおり大きく三つの部分に分かれる。

第一に建設されたのが『最初のP』と呼ばれる、『PORT』(宇宙港)の部分。

第二に設置されたのが『支えるP』と呼ばれる、『POWER』(駆動部&工場)部分。

第三に増築されたのが『第三にして真のP』の、『PEAPLE』(居住区)の部分。だった。

正式名称は(英語圏では)『The PORT of The PEAPLE's POWER』。

設計施工は『星雲基金』(ネビュラ・ファンド)推進機関の実質首脳陣が請け負い。

施主(依頼主)は...『F I F S』(フィフス)だ。

つまり、全人類の、希望の人工星...だ。

トキは、正式に『仮親』となってくれたジン・ルイフェンや仲間たちに連れられて、最初は『3 P S』建設委員会の本拠地だった地上の南米基地で暮らし。

次には建築中の『PORT』作業要員が寝泊まりする仮設隣接施設の『POP-UP』の有重力エリアで育った。

当然だが、他にはほとんど同年代の子どもなどいなかった。

ひたすら、大人たちの船外作業や、追加で至急の設計変更や、突発事故の対応や...の、

現場を観て、学んで、育った。

大きな事故や、悲劇的な事件なども多かったが、建築の手が停まることは一刻だとなかった。

早く...

早く！

一日でも、一秒でも早く...

地上の、人類と、全生命（せめて種子や遺伝子だけでも！）を...

保護したい！

働く人々は、それだけを願い、集まった、ボランティアたち。

だった。

仲違いもトラブルも多かったが。

一触即発のような状況になった時でも、...ふと。

地上の... 荒れ果てた、姿を、眺めおろすと...

おとなたちは一気に冷静になり。

「ここで言い争ってる場合じゃないな...！」

と。

意見のすりあわせポイントを必死で、探して。

譲歩しあい、止揚させ...

話し合いで。

解決して。

建築を、勧めた。

それを、トキは、まじかに...

観て、育った。

(2)

トキが十歳になろうかという頃、『3 P S』の『最後のP』が、ようやく、完成した。

以後の運営主体である『F I F S』への引き渡しと、盛大な打ち上げパーティーと。

即座に、めまぐるしく送り込まれ始めた、大勢の、避難民の...

最初期の、『宇宙移民』の...

一般人の。

ひとびと。

トキはその人たちとコミュニケーションをとる方法が、最初よく分からなかった。

今まで周囲にいた、いずれ劣らぬ『天才肌』の大人たちとは...

なにもかもが、違っている、ようだったので。

「...残念だけど、そろそろお別れの、時期かな？」

続く『月基地建設』計画へ向けて慌ただしく移転の仕度を始めたジンに。

ある日、言われた。

「きみはちょっと急いでオトナになり過ぎた。ここらでいっぺん、時間を巻き戻して。

遊ぶとか、さぼるとか、昼寝をするとか。

トモダチをつくるとか...

そういうのを、学んでみる、番だよ？」

「...ジンもそうだったの？」

「え？」

「ジンは？ オトナになる前に... コドモ、やったの？」

「...う～ん...」

五年間の育ての親は。

実年齢にはまったく見合わない外見の、若々しい仕種で。

大仰に悩んでみせた。

「やったと言えば... やったかなあ...。友達、は、出来たねえ... 失恋も、したりとか...」

「そうなんだ？」

「うん。まあ... 今のぼくの基盤になる経験というか... 青春というかは... した。ねえ...」

「ふ～ん...」

「大事な、思い出だよ。きみにも、体験しておいてほしいなあ？」

「そうなんだ...」

「とりあえず、新設『3PS俊秀学園』内に『複数学年スキップ級』（天才児）クラスが出来るから。

きみさえよければ、すぐにも編入手続きを、するけど？」

とりあえず、数年でもいいから。

同年代の人や、一般的な知能指数の人たちとの、交際のしかたや、『一般常識』を…、学んで。

それで、もし僻地での仕事のほうが向いていると思ったら。

就職は、月面開拓や辺境開発に、したらいい。

そう、言われて。

しばらくの、お別れの、つもりで。

笑って。

月面基地建設のための仮設宿泊施設に向かうジンを見送って…

以後、直接に会う機会は、なかった。

(破...竹) (同人活動)

(1)

学生生活、は...

面白かった！

子どもの頃には。周りにはいなかった。

自分と同じくらい、頭の回転が速くて...

理解力も好奇心も、同じくらいの、

...仲間！

『天才児クラス』の仲間は...

元々の学年や実年齢や、出身地や言語や、宗教の有無や宗派や、生活習慣や...

は、

すべてが、異なっていて！

それだけでも面白かったが、その『発見する違い』の、

『着眼点の違い』や。

『それに対応する態度』の選び方や『分析と論評』などなど... が！

『違い』や『個性』が『あること』自体が面白くて。

しばらくの間、トキは眼をきらきらさせて。

過剰に... 精神的に過労になるほどに...

『人間関係』というものに、ぐんぐん、のめりこんでいた。

「...そこまでハマるとは思わなかったなあ...

今まで結構やっぱり、寂しかったわけだねえ...

ごめんね？」

映話の画面の向うで、育ての親が苦笑するのを。

トキは大慌てで、全力で否定した。

「本物の一流の大人のひとたちから色々習えたのは本当に愉しかったよ！

でもそれとは別腹！」

「別腹かw」

そんな風にして半年ほどは、あっという間に過ぎた。

(2)

もうひとつ、この時期にトキが嵌まったものといえば。

...そう。

皆さんとっくにご存知の...

二次創作・同人作家活動、だ。

「実学的にはありえない！ 全然まったく『科学的』じゃない！ SF設定」だの、

「誰がそんな無茶な技術を考え出したんだ！ むしろFTじゃないのか！」と、突っ込みたくなる...

娯乐的、冒険的、ちょっとエロかったりもする...

エンタメ作品群の。

キャラクター造形が...

面白い！

当初、オリジナル作品をいくつか書こうと試みてみて。

トキは自分には「創作」という才能は宿っていないことを、悟った。

人生初めての挫折。と言ってもよい体験だったと、後年、彼自身が伝記で語っているが。

次いで彼は『大好きな他人作品のキャラクターを使ってオリジナル展開をつくる』という、

いわゆる『二次創作』作業に萌えた。

この方面には、いささかの才気を見せて。

『騎士世 彼方』（きしよ・かなた）の筆名で発表された某SF風味？ 架空歴史大作の。

IF設定な作品群は。

元ネタ小説の新旧ファンたちから、大きな支持を得るようになった。

『天才・学生作家、現る！』という見出しが。

彼の存在が世に知られた、最初の雑誌記事となった。

(3)

そして再びトキは、『はるかに年上』の。

『世に一流と呼ばれる』そしてそれまでとは異なって、幅広く、様々なジャンルの。

第一線で活躍する、大人たちと...

交流を、密に持つようになった。

同時に。

『学生生活』という概念の基本であるところの、

『学ぶ』という...

ある意味、『単純作業』の繰り返し。には...

飽きがきつつ、あった。

学んだ知識は消化吸収して、実験して、応用して。

ひとさまの役に立つものを創り出して、『お返し』して、なんぼだ...

...と、思うのだ。

『仮親』のジンからも、毎月常識的な額の『お小遣い』は振り込まれていたし、

『孤児育英金』からの『生活雑費支給金』もあった。

知識はあり余るほどに有ったし...

仲間も、得た。

さて...

最初の発表の場は、『学園祭における自由研究発表』（懸賞金つき）だった。

=====

#【ゲッターブレイド】

(華駄舞零弩)(GET_A_BLADE)

通常時は「下駄歯のブーツ」

踵の後ろを蹴ると2枚の横歯が縦一直線になり車輪が出てローラーブレードに。

足横を揃えて叩き合わせるか、
「おうちが一番いい！」の呪文（音声認識）で下駄に戻る。

=====

大好評を、博した。

ぜひ市販化を！

量産化を！

と、呼び声も高かった。

権利を売ってくれと言う、企業からの声も、かかった。

(転) 学生時代 (3) 学祭参加

『学生生活』という概念の基本であるところの、

『学ぶ』という...

ある意味、『単純作業』の繰り返し。には...

飽きがきつつ、あった。

学んだ知識は消化吸収して、実験して、応用して。

ひとさまの役に立つものを創り出して、『お返し』して、なんぼだ...

...と、思うのだ。

『仮親』のジンからも、毎月常識的な額の『お小遣い』は振り込まれていたし、

『孤児育英金』からの『生活雑費支給金』もあった。

試作品を、あれこれと個人的に実験するだけの。

資金と、艦橋は、十分に...

整っていた。

知識はあり余るほどに保有していたし...

共同作業や開発競争を繰り広げる、

仲間たちも、得た。

さて...

最初の発表の場は、『学祭における自由研究発表』（懸賞金つき）だった。

=====

#【ゲッタブレイド】

(華駄舞零弩)(GET_A_BLADE)

通常時は「下駄歯のブーツ」

踵の後ろを蹴ると2枚の横歯が縦一直線になり車輪が出てローラーブレードに。

足横を揃えて叩き合わせるか、
「おうちが一番いい！」の呪文（音声認識）で下駄に戻る。

=====

大好評を、博した。

ぜひ市販化を！

量産化を！

と、呼び声も高かった。

権利を売ってくれと言う、企業からの声も、かかった。

(破...竹) (学生起業)

(1)

幾つかの...名だたる大・有名企業からの...勧誘を、丁重に、謝絶した後。

「自分で起業する。」と、トキが発表したのは。

宇宙法的にそれが認められる最低限の年齢...

十六歳の、誕生日。だった。

彼のことを直接には知らない多くの大人たちは、

「また、無謀な」とか「世間知らずの頭でっかちな若造が、天狗になって」などと、酷評したが。

続いて発表された会社名が、

『銀河 映遊 電設』とあって。

『騎士世 彼方』の同人作品ファンの大人たちは

「...噴飯ものだなw」

「コーヒー噴いたw」などと、ネット上でさんざめきつつ。

あっという間に『一口株主』からの出資金が集まり。

当初社員十人の「年棒だけは確保できましたw」という報告が、ひと月を待たずに上がった。

=====
一旦ブームが去った後、如是さんの提案で第2弾が。

「ゲータ◆ード」とタイアップして

「空も飛べるんだ〜！」(月面限定) ブースター付きバージョン限定販売で一儲け♪

=====
『モバえるスーツ簡単夢』(かんたむ)(進化型寝袋)と、

『寝落ち椅子』(NEO-CHEERS!)の二点は。

『イベント』会場周辺(徹夜行列)で、さ迷えるファンたちと。

家から一步も出たくない、おたくな創作活動作家陣から...

=====
・特許取得

ニッティング工法

ジップアップ・シッピング工法

イナリズム(船防護幕)

のりまきシステム(デブリ「資源回収」網)

=====
「プロジェクト大風呂敷」というやつなら、

例によって、私の、

「役に立たない(?)予知夢」知りーずに、出て来てたな...どっかで。

<http://76519.diarynote.jp/200610120248330000/>

「(@@;)」

いやたぶん、こんなに「近未来」じゃない。

「地球に棲めなくなった生き残りの人類すべて(?)と生物なるべく全種類」を

「どんな貧乏人でも全員、衛星軌道に打ち上げるぜ」、
とかの「大風呂敷」(M toki プロジェクトの一環)だったと思うが...

(急...流)

・一攫千金

・乾坤一擲

・塞翁が馬

(転) 学生時代 (3) 卒業起業

(1)

幾つかの...名だたる大・有名企業からの...勧誘を、丁重に、謝絶した後。

「自分で起業する。」と、トキが発表したのは。

宇宙法的にそれが認められる最低限の年齢...

十六歳の、誕生日。だった。

彼のことを直接には知らない多くの大人たちは、

「また、無謀な」とか「世間知らずの頭でっかちな若造が、天狗になって」などと、酷評したが。

続いて発表された会社名が、

『銀河 映遊 電設』とあって。

『騎士世 彼方』の同人作品ファンの大人たちは

「...噴飯ものだなw」

「いやマジで『無粋な泥水』噴いたw」

などと、ネット上でさんざめきつつ。

あっという間に『一口株主』からの出資金が集まり。

当初の正社員トキ本人を含め数人の「初年度の年棒分だけは確保できましたw」という報告が、ひと月を待たずに上がった。

=====
一旦ブームが去った後、如是さんの提案で第2弾が。

「ゲータ◆ード」とタイアップして

「空も飛べるんだ〜！」（月面限定）ブースター付きバージョン限定販売で一儲け♪

=====
『モバえるスーツ簡単夢』（かんたむ）（進化型寝袋）と、

『寝落ち椅子』（NEO-CHEERS!）の二点は。

『イベント』会場周辺（徹夜行列）で、さ迷えるファンたちと。

家から一歩も出たくない、おたくな創作活動作家陣から...

=====
・特許取得

ニッティング工法

ジップアップ・シッピング工法

イナリズム（船防護幕）

のりまきシステム（デブリ「資源回収」網）

=====
「プロジェクト大風呂敷」というやつなら、

例によって、私の、

「役に立たない(?) 予知夢」知りーずに、出て来てたな... どっかで。

<http://76519.diarynote.jp/200610120248330000/>

「(@@;)」

いやたぶん、こんなに「近未来」じゃない。

「地球に棲めなくなった生き残りの人類すべて(?)と生物なるべく全種類」を

「どんな貧乏人でも全員、衛星軌道に打ち上げるぜ」、
とかの「大風呂敷」(M toki プロジェクトの一環)だったと思うが...

(キャラ設定) (新・旧)

(キャラ設定) (新・旧)

(キャラ設定) (新・旧)

由利 志郎。 (2017年8月10日) (コピー)

<http://85358.diarynote.jp/201708101628067102/>

<http://85358.diarynote.jp/201708101628067102/>

2017年8月10日 http://85358.diarynote.jp/?theme_id=18

http://diarynote.jp/data/blogs/1/20170810/85358_201708101628067102_1.jpg

http://diarynote.jp/data/blogs/1/20170810/85358_201708101628067102_2.jpg

http://diarynote.jp/data/blogs/1/20170810/85358_201708101628067102_3.jpg

きのうのブサイク氏に先を越された？ のが気に喰わなかったのか。(^^;)

前から居たけど、名前を把握していなかったキャラ氏が

名刺もって挨拶に来ましてねー☆(^^;)

てか、歴代「副官級」の連中がぞろぞろ並んじゃってる気配なんですけど。

☆(^^;)★

書き留める暇がないから、順番に、一人ずつにしてくれっ☆

=====

由利志郎。(ゆり・しろろ)

土岐真扉(とき・まさと)の相方。(中身はエルさん。)

《銀河英雄「電設」》の仕掛け人というか、発起人？

立場的に、土岐とどっちが偉いのかは、諸説の別れるところ。(^^;)

経理と営業と、後には法務関係まで担当。

居ないと会社が成り立たないけど、設計関係は専門外。(基礎知識は習得済み)

如是さんの「嫁いびり」(?)が趣味化? している。

まあとにかく、「中身はエルさん」。w (^^;) w

(ぶっつけ設定めも) (作業用)

(ぶっつけ設定メモ) (作業用)

(ぶっつけ設定メモ)

(作業用)

(2020年01月14日) めも。

<https://85358.diarynote.jp/202001140215216040/>

<https://85358.diarynote.jp/202001140215216040/>

2020年1月14日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/202001140215216040/>

(序章0)

グルージー・マーチャントック

ヴェルドゥエラ (ヴェルドゥィユ)・L・マーチャントック

ターキスト (瀧人)・マーチャントック

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月14日 5:43

ぐるーじー・まーちゃんとっく・島田？

(借景資料集)

(借景資料集)

(借景資料集)

(借景BGM集) (追記 @ 2020年03月27日)

<https://85358.diarynote.jp/201708301739465991/>

<https://85358.diarynote.jp/201708301739465991/>

2017年8月30日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=222

(分離独立 from ⇒ <http://85358.diarynote.jp/201611301756144888/>)

(借景BGM集) 『朝日ヶ森』～他。

☆土岐真扉の物語

<https://www.youtube.com/watch?v=e6-H9xKSPpw&list=PLA801FF4DB8F42470&index=9>

Johnny Goes Marching Home (Instrumental Version)

<https://www.youtube.com/watch?v=m1Xk9z7Ihoo>
たなばた / 酒井格 The Seventh of July / Itaru Sakai

https://www.youtube.com/watch?v=_6kbwWoCNTY
WORLD ORDER - Special medleys

<https://www.youtube.com/watch?v=bf0fMCFvnD0>
World Order (Find The Light / Mind Shift) Special X-Mass

<https://www.youtube.com/watch?v=anXXLZ6Iv7o>
WORLD ORDER on TV 名曲ダンス日本一決定戦 1

<https://www.youtube.com/watch?v=Vxmxpbn0pwA>
ポルノグラフィティ 『アポロ』

(“OPEN MUSIC CABINET”LIVE IN SAITAMA SUPER ARENA 2007 “)

<https://www.youtube.com/watch?v=i38eZEOpkUY>

上野哲生の動く年賀状 2015 It is Tessey Ueno's New Year's card.

<https://www.youtube.com/watch?v=BuxFXHircal>

Symphony of Science - Secret of the Stars

<https://www.youtube.com/watch?v=DZGINaRUEkU>

Symphony of Science - the Quantum World!

<https://www.youtube.com/watch?v=TKsuamxZG40>

Nearer My God To Thee

<https://www.youtube.com/watch?v=TG8A4iY7a2s>

FoZZtone”Reach to Mars" (Official Music Video)

<https://www.youtube.com/watch?v=GTrXMuyHDf4>

「TIGER & BUNNY」 Happy Birthday to Me, to Us

https://www.youtube.com/watch?v=16t3uL-IgLY&list=PLEc8PD1__bC0h6ij6JMcaCVhnFdPf12be&index=6

[TIGER & BUNNY] ガラスの巨人 Glass Giant (English Sub)

(執筆関連日記)

(執筆関連日記)

(執筆関連日記)

(2020年01月11日) 作戦、決定！！

<https://85358.diarynote.jp/202001111619109845>

<https://85358.diarynote.jp/202001111619109845/>

2020年1月11日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/202001111619109845/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200111/85358_202001111619109845_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200111/85358_202001111619109845_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200111/85358_202001111619109845_3.jpg

<https://www.youtube.com/watch?v=0o0qfKAlrac>

4 Hours Of The Best Epic Inspirational Music

...さて。

なんとか。(^^;)

午前9時から寝直して、4時間半+アルファは眠れました。

まだちょっと寝不足感はあって、頭はぼっとしてますが...

簡単にですが、机上是最低限ラインまで片づけました。

家事は順次片づけ中。明日はもう一度『外回り』用件。

(てことは定例掃除は明後日まわしだな...)

完全に！ 昼夜が逆転している問題は置いておいて、

予定の原稿作業に戻り鱒ッ！

…とか言いつつ。

想定外に年末休みが1週間ほど「なんかで消えた」ので…

予定作業が遅延中。(～”～;) …★

=====

…これは、今回は、諦めるか…。

⇒第11回創元SF短編賞

<http://www.tsogen.co.jp/award/sfss/11th/#awardKitei>

…あと残りわずか二日！で、

敬愛する堀 晃氏のお目汚しにかなうほどの佳作品が書けるとは思えない…

★(--;)★

=====

んで。「その次の予定」は、コレだったんですが…。

⇒キューダップワールドノベルプロジェクト

<https://qdopp.co.jp/campaign-worldnovelproject-announcement>

残り正味作業時間が。(全力で傾注したとしても)わずか12日ほど！

しかもまだ！「何を書くか」すら、(3つの候補のうちから)決まっていない！

…という…w(^^;)w…★

さて。

どうする私！wwwww

=====

>作品が未完成であっても構いませんが、

>最低でも 5 万文字程の分量

>日本国内だけではなく

>世界中のライトノベルの読者を唸らせる作品であるかどうか

>国内だけではなく海外のアニメファンにも人気が出るライトノベル作品

>選定された作品は弊社のプロフェッショナルが英語に翻訳し、

>表紙や挿絵なども作成し HF に投稿します。

>募集期間：1 月 31 日 23:59 まで

>既に投稿サイトやブログなどに掲載している場合はその URL お知らせください。

>既に投稿サイトやブログで作品を公開している場合、そちらの URL を送っていただけましたらそちらの URL で作品の応募を受け付けます。

=====

...はて...!

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020 年 1 月 11 日 16:22

最悪、「既作品トリガー応募」で、「酸化することに異議がある！」

でも、

一応、「顔だけは売っておく」が、可能なのか...w

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月11日 16:56

> HF で人気が高まった作品には、国内外のパートナー企業と共同し、弊社支援の元、
> 日本と海外でのメディアミックス展開を検討させていただきます。

...てことは、「ビジュアル的な派手さ」が求められてるな...？

> 一度に複数の作品を同時に応募することは可能です。

...おし！（^^）！

作戦、決定！！

(2020年01月12日) 電卓を用意しましたw

<https://85358.diarynote.jp/202001111619109845/>

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月11日 23:29

(ざっくりプロット) は、さくさく立てて。

(ざっくり草稿) の、原稿用紙5枚目まで。

書いて本日、終了~☆ (^ ^ ;) ★

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月12日 6:08

↑

(たぶんここで無意識に「原稿用紙換算」しちゃうところに、

前回の敗因がッ★)

w (^■^;) w

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月12日 12:29

電卓を用意しましたw

昨日書いたのが 2, 276文字／目標50, 000文字超え。

...え〜と... 50, 000 \approx 2, 276 =じゃなくて...

2, 276 \approx 50, 000... (算数能力が小学生並み) ...

...0. 04552 ... %...! (たぶん)。

...ヤマトよ急げ... 1月31日まで... あと... 何日...! ???

(2020年01月12日) いま + 2,052 文字。書いた。

<https://85358.diarynote.jp/202001121334293684/>

<https://85358.diarynote.jp/202001121334293684/>

2020年1月12日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/202001121334293684/>

参照⇒ <https://85358.diarynote.jp/202001111619109845/>

いま + 2,052 文字。書いた。

(2,276 + 2,052) わる (50,000)

いこーる 0.08565 (... 8.565...パーセント! (?))

(ちょっと休憩。@13:33)

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月12日 18:37

予定外に寝過ごしました。(^^;)

こっこれからがんばります...ッ!!

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月12日 18:58

推敲入れて、2, 394文字。

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月12日 19:45

+ 2, 3 4 4 文字。

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020 年 1 月 12 日 19:49

ちがった。+ 2, 2 2 4 3。

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020 年 1 月 12 日 20:29

↑

+ 2, 2 4 3、だってばw

+ 2, 0 5 1 文字。なう。

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月12日 20:32

+ 2, 276

+ 2, 052

+ 2, 243

+ 2, 051 = 8, 622

／50, 000 = 0. 17244...w

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月12日 21:13

だめだそこでもう脳ミソがネタw

...足りないぞー！

「中身を濃くする」しかないぞー！

（2020年01月18日） （まだ5分の2ッ！）

<https://85358.diarynote.jp/202001181617347336/>

<https://85358.diarynote.jp/202001181617347336/>

2020年1月18日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/202001181617347336/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200118/85358_202001181617347336_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200118/85358_202001181617347336_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200118/85358_202001181617347336_3.jpg

<https://www.youtube.com/watch?v=0o0qfKAlrac>

4 Hours Of The Best Epic Inspirational Music

=====

いま一気呵成に！（？）

8,300字も！

急遽追加した（された）「序章」部分を！

書いてきましたです...

一旦休憩！ 家事やって夕寝してくる〜ッ♪

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月18日 16:20

『原稿用紙換算』で、

一気に『20枚分』だな！

(´ー´)ノ

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月18日 22:55

...ありゃ。(またもや)寝過ごしたよ...(^^;)...★

20時に起きるつもりが、今さっき(21時半に)起きた館長...★

作業ペース配分が！

むちゃくちゃ〜っ★★

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月18日 22:56

...違うわ★

置田の22時半かッ★(今... 22:55...w)

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月18日 23:18

加筆して、9,009文字!

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月19日 0:59

(タイトル文字こみだど)

+ 9, 585 文字

+ 3, 005 文字

+ 2, 730 文字

+ 2, 739 文字

+ 3, 009 文字 (まだ途中!)

= 21, 068 文字!

(まだ5分の2ッ!)

(...がんばれ自分!)

(ちょっと時間的にもうムリ。...寝る。(^^;) ★)

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月19日 1:11

069

48...22。

(2020年01月19日) エンストなう...(- -;) ...★

<https://85358.diarynote.jp/202001191358541345/>

<https://85358.diarynote.jp/202001191358541345/>

2020年1月19日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/202001191358541345/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200119/85358_202001191358541345_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200119/85358_202001191358541345_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200119/85358_202001191358541345_3.jpg

> 『逃げなさい!』

> ../../../../book/126062/read

>

> 閲覧数: 1,212

↑

いっちにーいっちにー! (^ ^)!

...さて。リアル観て気分悪くなったところで、

現原稿～☆

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月19日 15:43

「総構成」は、固まった。(^^;)

...あとは書くだけ...!

...の、ところで、エンストなう...(--;)...★

んで、逃避行動。

⇒ <https://puboo.jp/book/127527/read# none>

...なんで。トリガーが、「トリガーにならない」のかな～...??

(しょがない。家事やってきもっそ!)

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月19日 15:44

0

6 9

4 9... 2 2... ☆

(2020年1月25日) がんばれあたし! 「あと半分...ッ!」
(・・・) ...

<https://85358.diarynote.jp/202001251648008684>

<https://85358.diarynote.jp/202001251648008684/>

2020年1月25日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/202001251648008684/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200125/85358_202001251648008684_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200125/85358_202001251648008684_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200125/85358_202001251648008684_3.jpg

<https://www.youtube.com/watch?v=WqKcvq0XxNs>

Final Fantasy Tactics - The War Of The Lions [COMPLETE OST ~ HIGH QUALITY]

...お♪ 祝! (^^)! 3000突破☆

↓

> 「あらすじです。」(宇宙史)(リステラス星圏史略・第1部)(最終稿)

> 39ダウンロード コメント(0) 閲覧数:3,004

そんで今、

+ 3, 575 文字と、

+ 3, 258文字を、「書いた」から…。

ここまで合計で… 27, 260…文字…(だっけ) …??

がんばれあたし! 「あと半分…ッ!」(・・) …

(間に合うのか…??)

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月25日 22:51

<https://hailstorm.c.yimg.jp/iwiz-weather/lightning/1579953000/1011-0010-101000-202001252050.gif?t=1579953666>

(20:40~20:50)

+ 3, 252文字 (...だっけ?) 書いて。

本日終了! (^^;)!

(2020年1月26日) ゼットタイ大事なブランドイメージの『社名』が...ッ!

<https://85358.diarynote.jp/202001262131397959/>

<https://85358.diarynote.jp/202001262131397959/>

2020年1月26日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/202001262131397959/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200126/85358_202001262131397959_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200126/85358_202001262131397959_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200126/85358_202001262131397959_3.jpg

<https://www.youtube.com/watch?v=Isthe4YV7tc>

Octopath Traveler ~ Epic Mix

=====

[https://hailstorm.c.yimg.jp/iwiz-weather/lightning/1580036400/1011-0010-101000-](https://hailstorm.c.yimg.jp/iwiz-weather/lightning/1580036400/1011-0010-101000-202001262000.gif?t=1580037067)

[202001262000.gif?t=1580037067](https://hailstorm.c.yimg.jp/iwiz-weather/lightning/1580036400/1011-0010-101000-202001262000.gif?t=1580037067)

(19:50~20:00)

=====

やばw (><;) w

物語上、ゼットタイ大事なブランドイメージの『社名』が...ッ!

念の為、「検索」してみたら...

とんでもねーエロサイトとかぶる...ッ!!! (号泣)

...なんか別の名称を！ 考えないと～ッ!!!!!!!!!!

(ってことで予定外に本日終了...)

(さっきネットも突然トラブったしな～...★)

ってことで合計で +7, 000 文字、くらい？

書いたところで、本日ザセツ終了～★★

w (- - ;) w

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020 年 1 月 27 日 5:54

代案～、決まった！ 問題ナシ！

ジャストフィット！（むしろ前より良し！）

(^ w ^) g

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月30日 19:59

...しまった。「先行他社」が、ちゃんと有った...(--;)...★

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月30日 20:02

www やべえw

↓

https://www.bing.com/search?q=tateru&form=IE10TR&src=IE10TR&pc=EUPP_ASJB

TATERU、創業初期から不正横行か | 楽待不動産投資新聞

<https://www.rakumachi.jp/news/column/230012>

2018/09/11 ì TATERU は今年 5 月、投資用アパートの融資にあたってオーナーの預金残高を改ざんして金融機関に提出していたことが発覚。今月 4 日に外部の専門アドバイザーを中心とした特別調査委員会を設置し、ほかに預金残高の改ざんがあったか...

.

タテル TATERU に業務停止命令で倒産か 期間は 1 週間 - ...

<https://totibaikyaku.com/2019/06/tateru-tousan.html>

タテル「TATERU」に業務停止命令が国交省から下されました。期間は 7 月 12 日から 1 週間、TATERU 側は「業務停止となれば存続は極めて厳しい」とコメント、倒産も懸念されています。西京銀行は不動産融資から撤退したため再開が難しい...

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020 年 1 月 30 日 21:03

社名変更。(^^;)

+ 4, 0 0 3 文字。

(2020年1月30日) いま、「37, 315文字」…。(^
^ ;)

<https://85358.diarynote.jp/202001301913009614>

<https://85358.diarynote.jp/202001301913009614/>

2020年1月30日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/202001301913009614/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200130/85358_202001301913009614_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200130/85358_202001301913009614_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200130/85358_202001301913009614_3.jpg

<https://www.youtube.com/watch?v=WbSNaDGWBHw>

Final Fantasy XIII Trilogy ~ Calm Mix

=====

おばんです。19:05です。画像は16時頃分です。

予報通りの猛吹雪...どころか! (--;)!

札幌はまったく無風。曇っているのにプラス4℃!

ぼたぼた雪が融けまくってます...微量ですがストロンチウムがキテます...★

★(ー#)★

とりあえず原稿やりまーす!

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月30日 19:48

...う”～ん...(--;) ...★

寒気がしてクシャミが出て、腹が痛くてトイレが近い...www

集中力が途切れて、『創作炎神』が、かからな～い...ッ！！

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月30日 19:55

明日の23:59が締切で。

条件が「最低50,000字以上」で。

いま、「37,315文字」...。(^^;)

眠い。寒い。

(おなかはいっぱい...w)

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月30日 21:17

とりあえず？

大体40,000字！ 到達〜ッ！（^0^）！

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月30日 21:43

作業中メモ。

<https://puboo.jp/users/masatotoki?p=16>

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月30日 21:56

+ 1, 633 文字 ♡

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月30日 21:59

本日根性が終了。(^^;)

明日のこりの1万文字を一気に書く！

という無謀な計画を立案して、

本日終了！ w

(2020年1月31日 19:29) 終わった! (￣ー￣)ノ ☆

<https://85358.diarynote.jp/202001311427507158/>

<https://85358.diarynote.jp/202001311427507158/>

2020年1月31日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/202001311427507158/>

>

> まつふじ @Yoimajyo ù 1月29日

>

> SF小説では生物兵器とワクチンはお対。

> 生物兵器を開発した組織は、ワクチンで儲けながら、

> 対象の人口削減、経済崩壊、国家転覆等を狙う。

>

> しかしウイルスが突如暴走し人類は存亡の危機に...

>

> こんなチープなSF小説のような展開にならないことを祈るばかり。

> <https://twitter.com/Yoimajyo/status/1222480406697693184>

=====

> 有明省吾 ρ ρ ★ @BAKA1DjoEI ù 1月28日

> 返信先: @Sankei_newsさん、@arimoto_kaoriさん

>

> > 「各地の発表で子供の感染が立て続けに出ている」

>

> これ長江日報(電子版)で報道されたのが事実なら、疫病から大動乱に発展する可能性も決して低くはないだろう。一人っ子政策で子供を大切にする中国人達には暴動の引き金になり得るからだ。

>

> 歴史的に中原王朝は内乱で滅びてきた。杞憂であれば良いのだが

> https://twitter.com/Sankei_news/status/1222093389237125121

↑

(私の「役に立たない? 予知夢シリーズ」では...「中国は自壊して消滅する」。
(--;)と。

三峡ダムの自重崩壊(大地震が引き金の?)とと思っていましたが...

「複合汚染」に、なりそうですね...★★)

=====

> まつふじさんがリツイート

> ユルクヤル、外国人から見た世界 @Yurukuyaru 1月27日

>

> ペンギンの首の骨が実際こんなに長いんだったら、

>

> 首の骨が長い恐竜も実はこんな体だった説

> <https://twitter.com/Yurukuyaru/status/1221721703862030339>

...さて。

事実ほどには奇でも危でもない、小説世界(原稿)に、逃避してきますわ...★

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月31日 16:03

+ 4, 9 5 5 文字ッ☆

(^ ^ ;) ””

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月31日 19:29

.....

終わった！ (¯ _ ¯) ノ ☆

(2020 年 1 月 31 日) 【 総文字数 / 4 4 , 5 5 4】

<https://85358.diarynote.jp/202001312300543881/>

<https://85358.diarynote.jp/202001312300543881/>

2020 年 1 月 31 日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/202001312300543881/>

...承前...w (- - ;) w...★

ああああああああ...ッ!! ★

> 作品番号 1588851 最終更新 2020/01/31

>

> 『トキ・マサト 伝』

> <https://novema.jp/book/n1588851>

>

> 霧樹 里守 (きりぎ・りす) / 著 SF・冒険 15 ページ完

>

>

> 総文字数 / 4 4 , 5 5 4

...またもや...!

不戦敗...ッ！！ (><p) ！！ ...★ッ

=== (さらにな...★) (== #) ★=====

ひみつ日記 前略

つい先ほど、御社に投稿させて頂きました。

ちょっとこれ酷すぎないですか？ こんな酷い募集フォームは初めてです！

↓

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScG66d4EChE69oFmMCWbEb5eZQ7upT2vwHgxEtqu4Df-B3qoQ/viewanalytics>

他の応募者に対して、私の実名もメールアドレスも丸見えです！

こんな酷い会社に応募するとは思っていませんでした！

これで何か実害が出た場合には、きちんと責任を取っていただけるんですよね？

酷すぎます！！

=====

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月31日 23:08

...何だか知らないけど、パブーとノベマで、文字数に1割近い？

誤差が出る?? んだよな～...w(;;)w...★

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年1月31日 23:30

どうも

Gメールで、「きりぎりす」を騙っている？

奴が、いるらしい...(;;) ...★

(2020年2月1日) 「正味10日で単行本一冊分を書く！」
という無駄チャレンジはクリアしました...w

<https://85358.diarynote.jp/202002010614462829/>

<https://85358.diarynote.jp/202002010614462829/>

<https://85358.diarynote.jp/202002010614462829/>

2020年2月1日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200201/85358_202002010614462829_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200201/85358_202002010614462829_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200201/85358_202002010614462829_3.jpg

遅めようございます。06:07です。

(前々項+あるふぁ参照願います...★)

昨夜は何とかかんとか「原稿は完成!(^^)!

したのですが...(--;)...★

またもや「パブで余裕だった」はずの文字数が!

⇒「ノベマ! にコピペしたら勝手に一割減」(!?)

現象で、「不戦敗」に...★

そしてそれでも一応投稿しましたら。

システムの不具合？ というか企業の怠慢？ で？！

「個人情報内外にダダ漏れ！（><#）！」という結果に...★★

（--#）

こんな酷い杜撰な会社と、つきあいたくなんかない...★

と、グレてるどころへ、さらに追い打ち。

不快なエロCMが蔓延していて画面を開くのも嫌な！『小説家になろう』が！

自分のセクハラは柵に上げて！

私の原稿が！「18禁！」だから勝手に消すとか！

ほざいてます...ッ！！！！！！

===

...私、やっぱり、【プロ】（商業）作家になる。

のって、無理だわ...！？！？！？？

===

まあとりあえず。

なんか文章を直す暇がまったく無かったので誤字脱字と悪文だらけですが。

「正味10日で単行本一冊分を書く！」という無駄チャレンジはクリアしました...w

> トキ・マサト 伝

>

> 霧樹 里守（きりぎ・りす）/著ヒューマンドラマ

>

> 15 ページ完 総文字数/44,554

> <https://novema.jp/book/n1588851>

...ご笑読いただければ幸いです...www

(2020年2月2日) 「外見そっくりさん！」

<https://85358.diarynote.jp/202002021555189112/>

<https://85358.diarynote.jp/202002021555189112/>

2020年2月2日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18

<https://www.youtube.com/watch?v=LvURhkpwAE>

Valkyrie Profile [COMPLETE OST ~ HIGH QUALITY]

=====

...これ、「外見そっくりさん！」なんですけど...?? (^^;) ...??

↓

> まつふじさんがリツイート

> yumi ゆみ @ygjumi ù 1月30日

> yumi ゆみさんが Unloc Enterprise Challenge をリツイートしました

>

> 若き企業家

> <https://twitter.com/ygjumi/status/1223004244342648833>

↑

(本人...ッ!??)

↓

『トキ・マサト 伝』

<https://novema.jp/book/n1588851>

↑

...借景資料が多すぎます... www

↓

> 稀人ハンター・川内イオ/ネクストファーマーズさんがリツイート

> AFPBB News 認証済みアカウント @afpbcom ù 2時間2時間前

>

> これが「フランス流」、隔離先は海辺の保養施設 武漢から帰国の179人

> <https://twitter.com/afpbcom/status/1223833471291985921>

> まつふじさんがリツイート
> YUKO@あみぐるみすと @amigurumist125 ù 1月31日
>
> 食べたくて編みました
>
> \#ズワイガニ #あみぐるみ
> <https://twitter.com/amigurumist125/status/1223224779676639233>

> まつふじさんがリツイート
> セキヤスヒサ @Campaign_Otaku ù 1月31日
>
> バルーンがドレスに変わる...意味は全く分かりませんが、
>
> これが2020年のファッションとのこと。
> https://twitter.com/Campaign_Otaku/status/1223099131767349251

↑
別ネタで出る予定ですが。(^^;)

「宇宙事故対応用・ファッション気密服」でございます...w

(2020年02月02日) ☆新作アップ済で一す☆

固定されたツイート

《歌いながら大地を歩く》霧樹里守 @MasakoTsuchiya2 ù 2時間2時間前

お願いが2件。(´ー´)ノ

★【緊急時 通報のお願い】

★【健康な人ほど自覚症状ない】⇔【窒息して意識喪失】。

[https://85358.diarynote.jp/202002021438144865 ...](https://85358.diarynote.jp/202002021438144865...)

★ブログの更新が停まったら...

★【通報 お願いします。】

===

☆新作アップ済で一す☆

『トキ・マサト 伝』

<https://twitter.com/MasakoTsuchiya2/status/1223855962764656641>

（2020年03月01日） 日本語圏（出版社と読者層）は存続
しうるのか？

<https://85358.diarynote.jp/202003012042507195/>

<https://85358.diarynote.jp/202003012042507195/>

2020年3月1日 https://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <https://85358.diarynote.jp/202003012042507195/>

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200301/85358_202003012042507195_1.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200301/85358_202003012042507195_2.jpg

https://diarynote.jp/data/blogs/1/20200301/85358_202003012042507195_3.jpg

はい落ちました～！ ★ www

↓

> 選定作品発表

>

> 昨年度より始動した「キューダップワールドノベルプロジェクト」では弊社が運営している英語の小説投稿サイト”Honeyfeed”（以下、HF。）にて公開し、海外で展開することを見据えたライトノベル作品を募集しておりました。

>

> ライトノベル作品の公募企画としては初めてであったにも関わらず、予想を上回る三桁の数のご応募をいただき、作者の皆様には大変感謝しております。

>

> 技巧が凝らされていた作品から冒険心に溢れている作品などどの作品もそれぞれに評価できる点があり、どれがより面白いかという議論は弊社内でも尽きることはありませんでした。

>

> ですが今回は、英語圏のライトノベル作品としては確立されていないものの、海外で

新たなライトノベルの分野を切り拓くことに挑戦でき、かつその作品を読んだファンの方が同じようなジャンルの作品を自分の手で作ってみたいとなると考えた三作品を選定させていただきました。

>

> 選定作品は以下の三作品になります。

>

>

> 『バーンドアウトヒーローズ』 著/big bear

>

> 『深夜のコンビニバイト始めたけど魔王とか河童とか変な人が来すぎて正直続けない自信がない』 著/ガイア

>

> 『クラスメイトを全員殺された俺はその魂を武器にして復讐する』 著/アキライズン

>

>

> (敬称略、順不同)

>

>

> これらの作品は弊社のプロフェッショナルが英語に翻訳し、今春より順次 HF に投稿させていただきます。

>

> 英語でのみの投稿になりますが、ご興味ある方は是非 HF でもご覧になってください。

>

> 弊社では今後ともライトノベル作品の公募を行う際はまたアナウンスいたしますので是非とも弊社 HP などをご確認ください。

>

> 改めてこのたびはたくさんのご応募いただきまことに有難うございました。

> <https://qdopp.co.jp/選定作品発表>

=====

そして2月中は結局、「変な祝日？ が入ったせいの変則シフト」と「コロナ！」

のせいで心身がガタガタしていて、「何も書けません！」でした...(--;) ★

3月になったら事態が落ち着くのか？ つうと、全然？

「おサキ真っ暗！」 「一寸先は病み！」

と、嘯きつつ...(--;) ★

・日本語圏（出版社と読者層）は存続しうるのか？

・人類文明は存続しうるのか？

・書いて、読んでくれる人、いるのか...??

と、悩みつつ...

さて...w (～”～;) w...★

...あれ...??

>このページは表示できません

@『小説を応募できるコンテスト一覧』

<https://textfield.net/contest>

(...コロナか...ッ??)

=====

これって『大嘘つき野郎@小説家になろう!』と別の怪社??

↓

monokaki 編集部

<https://monokaki.everystar.jp/writers/monokaki/>

...エブリスタか! (--;)! ...相性悪そう...★★

=====

作戦たーいむッ!! ★

コメント

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年3月1日 20:45

来週これをゆっくり読もう。うん。(^^;)

↓

作家になりたい人を応援するサイト

新人賞リスト

<https://sakka.club/list/>

<https://85358.diarynote.jp/>

<https://85358.diarynote.jp/>

2020年3月1日 20:46

07194

00☆

奥付

奥付

(土岐真扉の物語) (仮題)

↓

『Masato TOKI の物語』

改め、⇒『トキ・マサト伝』

<https://puboo.jp/book/129658>

著者：霧樹 里守 (きりぎ・りす)

著者プロフィール：<https://puboo.jp/users/masatotoki/profile>

感想はこちらの【コメント欄】へ

<https://puboo.jp/book/129658>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<https://puboo.jp/>)

運営会社：デザインエッグ株式会社

『 トキ・マサト伝 』

著 霧樹 里守 (きりぎ・りす)

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
